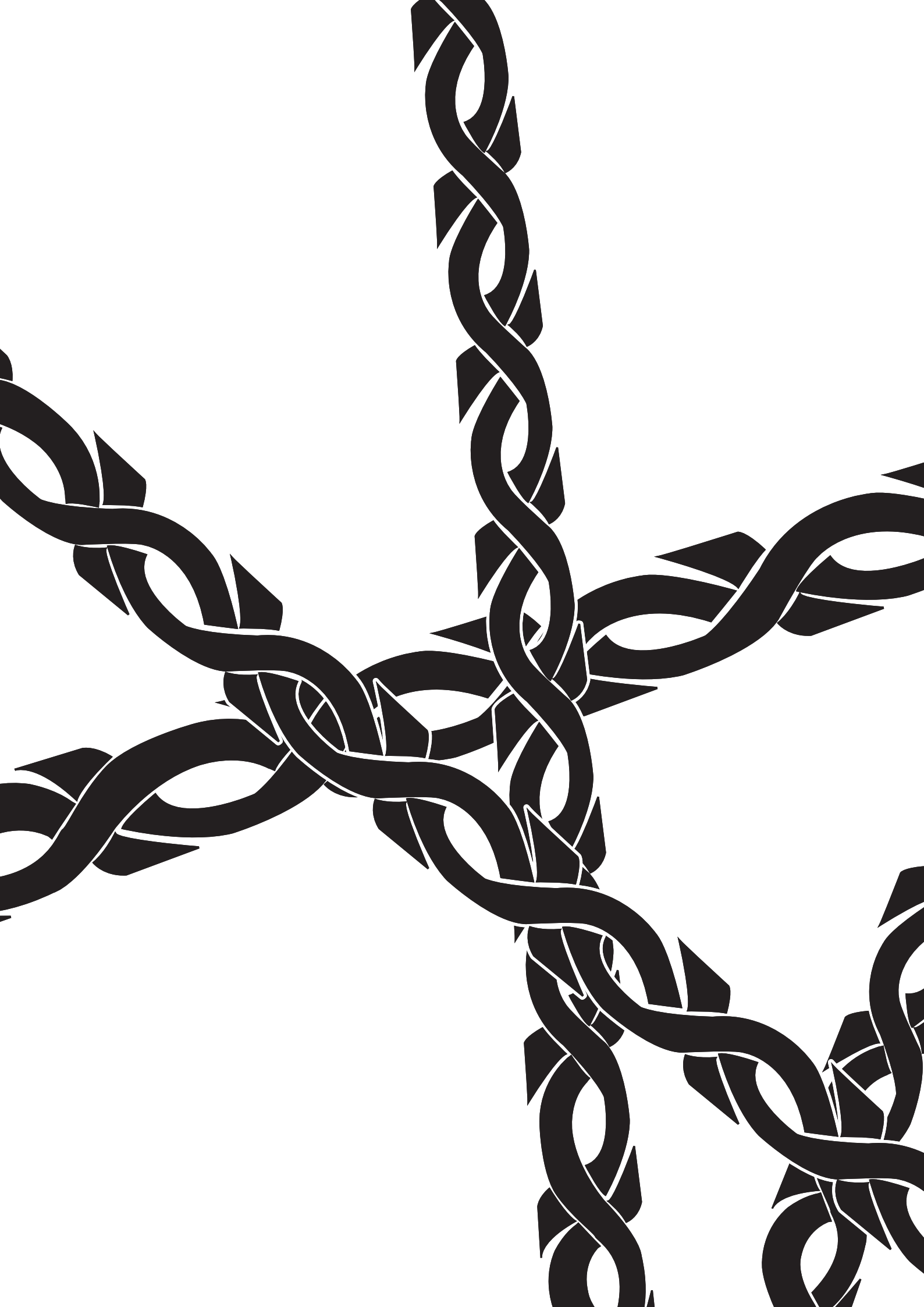
JOMON DESIGN VOL.1

縄文デザイン集 1

弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター2011



JOMON DESIGN VOL.1

JOMON DESIGN VOL.1

縄文デザイン集 1

弘前大学人文学部附属 亀ヶ岡文化研究センター2011

刊行によせて

平成 22 年 12 月、東北新幹線の全線開通により、青森では今まで以上に観光による経済効果への期待が膨らんでいる。自然志向が強まるとともに、観光に他では味わえない独自性が求められる今日、特別史跡三内丸山遺跡をはじめとした世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」には、観光資源として大きな期待が寄せられている。

従来、文化財の活用といえば、とにかく観光という発想が優先し、それ以外の方向性が希薄であったように思われる。文化財は「文化的財産」であり、木材や石油などの天然資源とならぶべき文化的資源といえよう。地域住民は、それを活用する権利を有するとともに、それを使い果たすことなく、子孫に伝える義務を背負っている。自然遺産が、その価値を保護するため、観光客に様々な制限を課しているように、文化財の保護と活用は常に調整が必要である。

ところで、縄文土器は、先史土器としては類い稀なほど質と量が豊かであり、そのことは大森貝塚の発掘の時点から既に E.S. モースにより認識されていた。特に縄文晩期に東北地方を中心に分布する亀ヶ岡式土器には、高い工芸的技術が看取される。亀ヶ岡文化の土器や土偶がもつ珍しさと美しさは、古くは江戸時代から人々を魅了してきた。明治以降、縄文土器は主として考古学の対象となったが、一方で古器物として美術的観賞の対象でもあり続けてきた。今年度、青森市の成田惠子氏より本学に寄贈された「陸奥全国神代石古陶之図」は、放浪の画人蓑虫山人により明治 10 年代に描かれたもので、花生・水指・茶杓立・菓子器などに見立てた縄文土器が多数描かれており、当時の美術的観賞の在り方を垣間見ることができる。

前センター長の藤沼邦彦元教授は亀ヶ岡式土器の文様研究の第一人者で、文様の図案化の方法を開発するとともに、デザイン性の追求にも取り組んでこられた。当センターでは、亀ヶ岡文化の研究を進める一方、地域貢献の一環として、亀ヶ岡式土器の文様を活かした工芸品の開発を試みてきた。平成 21 年 12 月には、弘前市内で津軽天然藍染を手がける川崎染工場と提携し、亀ケ岡式土器の文様を活かした縄文デザイングッズの販売を開始するに至った。図案の素材となったのは、当センターが平成 18 年に発掘調査し、平成 20 年 3 月に報告書を刊行した三戸町杉沢遺跡出土土器で、現在、12 種類のデザインにより、風呂敷・栞・コースター・タペストリー・バンダナ・トートバッグ・Tシャツなどの藍染製品が販売されている。

縄文土器の文様は、時代性・地域性を反映し、非常に豊かなバリエーションがみられる。とりわけ亀ヶ岡式土器の文様は、種類が豊富なうえ洗練されたものが多く、魅力的である。それらは先人が遺してくれた遺産であり、地域に根ざした財産と言えよう。我々は、縄文デザインを、縄文の文化的遺産を享受しつつ、その価値を減じることなく、むしろより発展させて未来に引き継ぐための道具の一つと考えている。縄文デザインは、デザインであるが故、栞のような身の回りの小物から、マンホールの蓋、さらにはコンサートホールの緞帳のような大がかりなものまで、汎用性が広い。それぞれの地域で、地域内の遺跡から出土した縄文土器の文様に基づくデザインを生活に取り込めたら、東京を中心とする均質で変化に乏しい身の回りの世界は、驚くほど豊かなものへと変貌するのではなかろうか。

本図録には、平成 21 年度に青森市の成田惠子氏から弘前大学に寄贈された成田彦栄氏収集品のなかから 52 点の縄文土器を選び、それらの文様図案と、図案の現代の器物への活用案を掲載した。

とにかく理屈抜きに縄文土器の文様のすばらしさを多くの人に味わって欲しい。欲を言えば、縄文デザインを地域の活性化や現代アートの起爆剤にしたい。そのような想いをこの図録に込めた。

平成 23 年 3 月

人文学部附属亀ケ岡文化研究センター長　関根　達人

目次

刊行によせて …… 1
目次・例言 …… 2
1. 縄文土器に美を見いだした人々…… 3
2. 図案化の方法…… 7
3. 縄文デザイングッズの提案　…… 7
縄文図案集……11
縄文デザイングッズ案 ……63

例言

1. 本図録には、平成 21 年度に青森市の成田恵子氏から弘前大学に寄贈された成田彦栄氏収集品のなかから 52 点の縄文土器を選び、それらの文様図案と、図案の現代の器物への活用案を掲載した。
2. 本図録の執筆分担は次の通りである。
   1：関根達人（人文学部教授）　2：関根・織田麻未（人文学部 4 年）　3：織田
3. 土器の拓本ならびに縄文図案・縄文デザイングッズ案は、関根の指導のもと、織田が平成 22 年度の卒業研究として作成した。
4. 土器の実測図ならびに写真は、『成田コレクション考古資料図録』（2009 年刊行）から転載した。
5. 本図録の編集は、関根が行った。
6. 本図録作成に関わる費用は、関根の平成 22 年度弘前大学教育研究経費から支出した。
7. 本図録の作成に関し、次の方々・機関の協力を得た（順不同・敬称略）。
   成田恵子・成田容子・成田滋彦・小川忠博・藤沼邦彦・上條信彦

1. 縄文土器に美を見いだした人々

近年は美術的視点から縄文土器が取り上げられる機会が増え、美術館に縄文土器が列ぶことが珍しくなくなった（東京国立博物館 2002、鈴木 2003・2005）。

縄文の美を「発掘」したのは芸術家の岡本太郎（1911 ～ 1996）だといわれる（小林 2001・2007）。岡本は縄文の造形・文様は「強烈に宗教的、呪術的意味を帯びて居り、云いかえれば四次元を指向している」とし、そこに「根元的生命力」を見いだした（岡本 1952）。岡本の存在が強烈なあまり、一般には良く知られていないが、岡本以前に、縄文に工芸美を見いだした人々がいた。

ここでは、美術工芸という視点から縄文土器の文様に関心を寄せた数少ない研究者を取り上げ、彼らの視点と土器文様にもとづき作成された図案を紹介する。

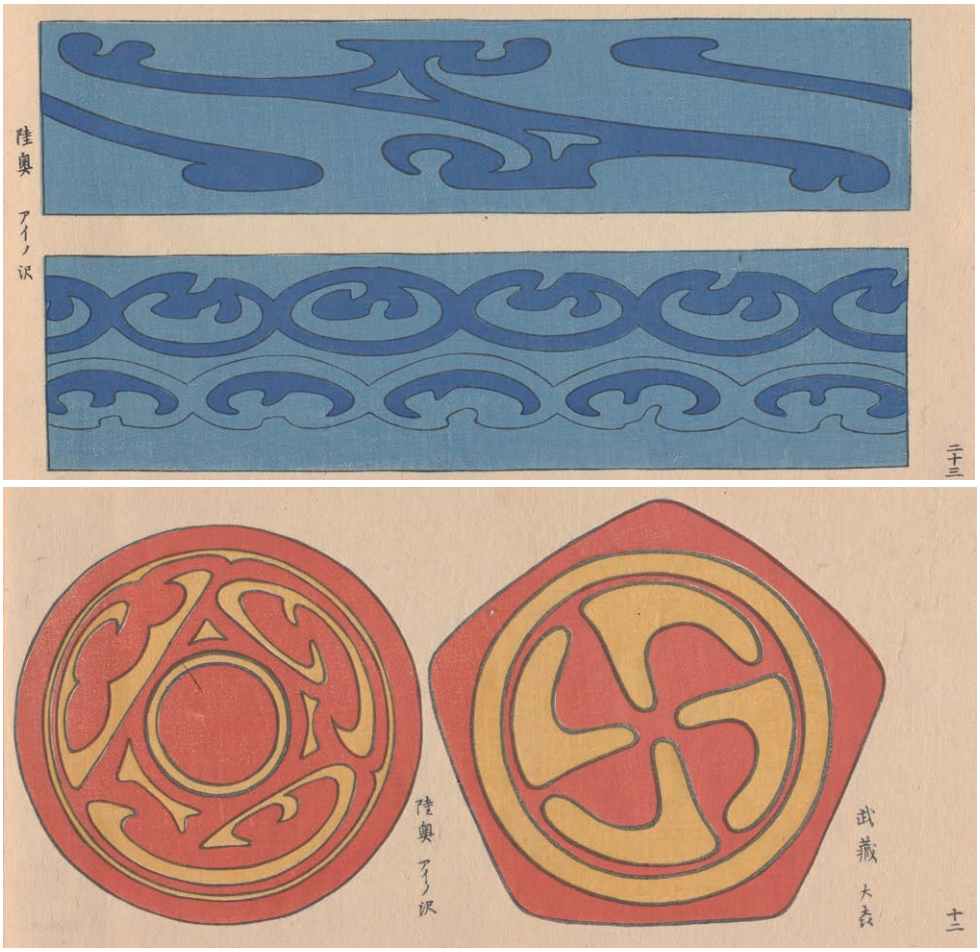
E.S. モース（1838 ～ 1925）は、大森貝塚出土の土器の文様について、「欧羅巴太古ノ土器」同様、「一モ木葉草花鳥獣等凡ソ天然ノ物象ヲ模スル所ノ文飾アルモノナシ」とし、縄文土器の文様について、実体文が非常に乏しいという縄文文様の本質に関わる重要な指摘を行っている（E.S. モース 1879）。

初めて縄文土器の文様を図案化したのは、明治 25 年（1892）に東京帝国大学理科大学人類学教室の図画を嘱託されて以降、画工として、次いで考古学者として人類学教室に籍を置いた大野雲外（1863 ～ 1938）こと大野延太郎である。大野雲外の画業を検討した蔵田愛子によれば、大野は明治 28 年（1895）に『紋様集石器時代』という手彩色に紋様集（千葉大学附属図書館蔵）を手がけている（蔵田 2008）。大野は紋様集の製作に関し、「余は勉めて土器の紋様の原形を失はず之を引き展し、殊に秀逸なるを撰びて加ふるに、自己考案の彩色を施し一層の美を呈せんことを期したり。実業家巧に使用せば益するところ此になかざるを信ず」と述べている。大野の紋様へ関心は、明治 34 年（1901）、東京帝国大学理科大学人類学教室が所蔵する遺物が単色の石版画で掲載した『紋様のくら（日本石器時代の部）』で公刊される。同書に掲載された図案をと入り入れた帯が、実際に群馬県桐生の絹織物工場で製作されていたことが当時の新聞記事で確認されている（蔵田前掲）。

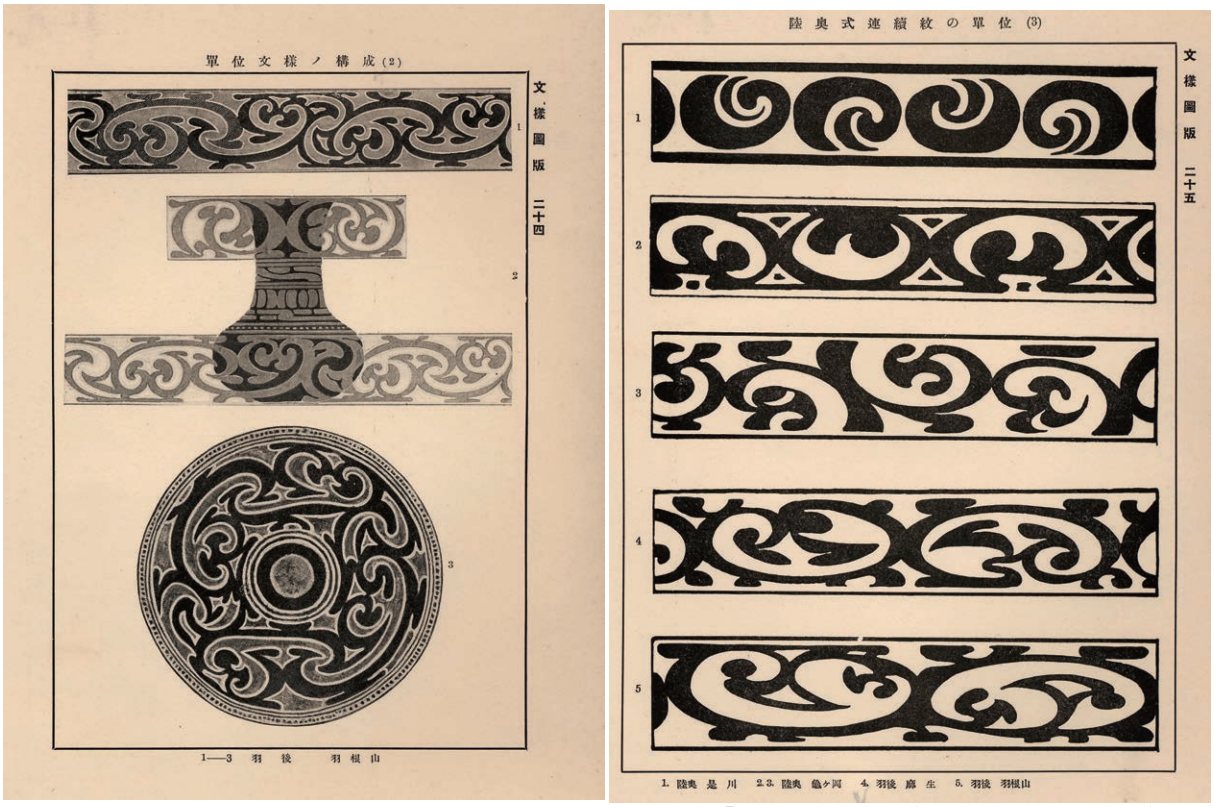
続く明治 40 年（1907）刊行の『人種紋様』先住民の部は、東京帝国大学理科大学人類学教室と帝室博物館に所蔵される縄文土器・弥生土器 52 点と縄文時代の土版 7 点を着色図版に掲載している。土器は上面（下面）形が若干示されているものの基本的に土器の形状には一切触れず、土器側面の文様を横方向に帯状に展開し図示している（註）。人類の研究上亦工芸美術上」の目的を掲げた本書の主眼は、あくまで題名通り紋様を追求にあった。なお、続編である大正 5 年（1916）刊行の『人種紋様』上代日本の部では、刊行の目的を「上代我が日本民族間に使用せし遺物から紋様として面白きものを撰擇して弘くこれを工芸社会に応用せしめんとする考えである」とし、原始紋様を現代工芸に活かそうとする姿勢が明確に示されている。

大野雲外に次いで、縄文土器の文様に多大な関心を寄せたのが、図案家として出発し、後に工芸史の研究者として、あるいは工芸資料の収集家として名を馳せた杉山寿栄男（1885 ～ 1946）である。杉山の研究業績については、既に藤沼邦彦による詳細な調査がある（藤沼・小山 1997）。杉山の縄文土器の文様に関する研究は、当時としては質・量ともに他の追随を許さぬものであったが、人種論に傾く地域差を重視するあまり、時代的変遷の視点が驚くほど弱い点が惜しまれる。

大正 12 年（1923）、杉山が後藤守一と共著で刊行した『原始文様集』は、高橋健自と鳥居龍藏を編集顧問とし、縄文・弥生の土器・土製品・石器・骨角器を写真と拓本で紹介したもので、その後 1926 年再版、1928 年三版と、版を重ねた。藤沼邦彦によれば、本書は考古学に関する杉山の最初の著作だが、後年杉山が特異とした文様の図案は、本書の表紙を飾る秋田県麻生遺跡出土の土製仮面（東京大学蔵）だけで、図版中には図案化された文様は全く提示されていない。ちなみに、杉山が図案化した麻生の土製仮面は、明治 30 年（1897） 12 月に、大野雲外が麻生遺跡の調査を行った際、地元の収集家である小笠原為吉氏から譲り受け、東京帝国大学理科大学人類学教室に持ち帰ったものである。



『人種紋様(先住民の部)』(大野雲外 1895年)



『日本原始工芸』(杉山寿栄男 1928年)

図案化された縄文土器の文様

昭和３年(1928)刊行の『日本原始工芸』は、編集顧問に浜田耕作をはじめ、長谷部言人・高橋健自・喜田貞吉・関野貞といった錚々たる研究者が名を連ねることから判るように、杉山渾身の著作といえる。『日本原始工芸』で杉山は、「我原始時代の工芸の検討に至っては極めて重要なるにも拘らず、考古学人類学の小範囲に於てのみ考證せられ、これを工芸文化の立場から考察研究したものは実に寥々たるものである」と指摘した上で、樺太から九州・台湾にいたる全国各地から縄文土器・土偶・土製品・石器・骨角器・漆器など2000点を超す遺物を集成、それらを写真・拓本・石版画・文様図案を駆使して掲載した。この本はまさに杉山が意図した通り、「日本原始工芸の最初の総覧」となった。236枚の図版のうち文様図版が47枚を占めており、杉山の文様に対する関心の高さと、文様を図案化する卓越した技術力が窺える。なお、この本の中で、杉山は縄文土器の文様について、「日本独自の趣味性を現わし、特に海外未開民族の応用するグロテスクの動物文様を好まず自然に構成手法の異なる起源の発達が見られる」と指摘したが、それは先述したモースの観察とも合致している。

『日本原始工芸概説』は、縄文時代の遺物全般を網羅する点で概論的体裁をとる一方、総頁数416頁のうち、文様総論に71頁、加えて文様図版解説にも96頁を割いており、前書同様、文様への強い思い入れが窺える。

【註】

図版の中で１点だけであるが、土器の文様を扇形に展開させたもの(28「武蔵日暮里」と付記のある土器で、文様から判断して掘ノ内２式の深鉢と思われる)が認められる。なお、蔵田愛子は、大野による文様の図案化の手法について、福井時代に画塾彰技堂で学んだヴィーア・フィスターの西洋画手本の影響を指摘している(蔵田 2008)。

【引用・参考文献】

大野雲外 1901『紋様のくら（日本石器時代の部）』嵩山房
大野雲外 1907『人種紋様』先住民の部　芸艸堂
大野雲外 1916『人種紋様』上代日本の部　芸艸堂
大野雲外 1926『遺跡遺物より観たる日本先住民の研究』磯部甲陽堂
岡本太郎 1952「四次元との対話－縄文土器論」『みづゑ』558　3～18頁　日本美術出版
蔵田愛子 2008「大野雲外の画業―人類学教室での活動と『紋様集』－」『近代画説』17　38～56頁　明治美術会
小林達雄 2001「岡本太郎と縄文の素顔」『岡本太郎と縄文展』7～11頁　NHKプロモーション・川崎市岡本太郎美術館
小林達雄 2007「岡本太郎と縄文の発見」『東北学』13　41～51頁　東北芸術工科大学東北文化研究センター
後藤守一・杉山寿栄男 1924『原始文様集』工芸美術研究会
杉山寿栄男 1928『日本原始工芸』工芸美術研究会
杉山寿栄男 1928『日本原始工芸概説』工芸美術研究会
杉山寿栄男 1931『日本考古図録大成14　縄紋土器』日東書院
鈴木希帆 2003「縄文芸術序説：古器物から美術へ―その受容の変遷―」『美史研ジャーナル』14～13頁　武蔵野美術大学美学美術史研究室
鈴木希帆 2005「縄文土器の彫刻的造形はどこからくるのか」『美史研ジャーナル』3　武蔵野美術大学美学美術史研究室
鈴木希帆 2010「近代日本における縄文土器の受容」『第63回美術史学会全国大会発表要旨集』

東京国立博物館 2002『土器の造形―縄文の動・弥生の静―』
藤沼邦彦 1983「文様の描き方―亀ヶ岡式時の雲形文の場合―」『縄文文化の研究』5（縄文土器Ⅲ）151 ～ 167 頁　雄山閣
藤沼邦彦 1989「亀ヶ岡式土器の文様の描き方―雲形文を中心として―」『考古学論叢』Ⅱ　129 ～ 175 頁　芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会編　纂修堂
藤沼邦彦・小山有希 1997「原始工芸・アイヌ工芸の研究者としての杉山寿栄男（小伝）」『東北歴史資料館研究紀要』23　1 ～ 29 頁
藤沼邦彦ほか 2008「亀ヶ岡式土器文様のデザイン・図案集」『亀ヶ岡文化雑考集』115 ～ 139 頁　弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター
E.S. モース（矢田部良吉訳）1879『大森介墟古物編』理学部会粋第一帙上冊　東京大学法理文学部

2. 図案化の方法

土器の文様をデザイン化するには、曲面に展開する文様を平面図に置き換える必要がある。文様の平面図の作成には、展開写真と拓本を用いた。

文様の展開を横長の長方形に示したもの（横長図案）には、展開写真を使い、文様の展開を円形に示したもの（円形図案）には拓本を使った。同じ文様のデザインでも横長図案と円形図案とではだいぶ印象が異なる場合もある（図版 21・44、22・45、23・46、24・47、25・48、34・51、35・52）。

以下この二つのデザイン化についてその手順を述べる。

（1）横長図案の作成方法（図版 1）

横長図案は、まず初めに展開写真をトレースする。展開写真は、小川忠博氏が撮影したもの（関根達人・上條信彦編 2009『成田コレクション考古資料図録』弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター）を用いた。展開写真をもとに文様をトレースする際には、実物の土器をよく観察しながら行った。

こうしてできた第一段階のトレース図には、土器のゆがみが残っており、また、欠損部分が原因で文様が不完全な場合も多い。そのため、ゆがみを除去すると共に、欠損部を補い、再トレースする必要がある（第二段階のトレース図）。第二段階のトレース図では、沈線を黒色、その他の浮き上がっている部分を赤色、注口部や突起部などの文様に直接関係ない部分は灰色で色分けした。

（2）円形図案の作成方法（図版 2）

円形図案では、まず、図案を作成する土器の拓本をとり、とった拓本は、皺などがつかないよう方眼用紙に貼る。そして、それをスキャナーでパソコンに取り込む。土器の側面の拓本は、一般に扇形となる。

次に、その扇形の拓本を円形に引き伸ばすことで、文様の円形図案化を図る。具体的には、扇形の拓本を 20 前後に細かく分割し、それを均等になるように円形に配置する。

分割配置以後の作業手順は、横長図案の作成方法と同様、第一段階のトレースを経て、第二段階のトレースを行う。円形図案でも同様に、沈線を黒色、その他の浮き上がっている部分を赤色で色分けした。

3. 縄文デザイングッズの提案

デザイン化した土器の文様は、様々な器物に応用することが可能である。ここでは、具体的に 16 種類の事例を挙げ、商品化を検討した。

（1）切手（縄文グッズデザイン案 1）

切手には、名所や遺跡、花や果物、世界遺産、美術品、アニメなどの絵が印刷されている特殊切手があり、見た目にも楽しく、収集して楽しむ人も少なくない。名所・遺跡が印刷されたものは、旅行の記念やお土産にもなる。実際、国宝に指定された八戸市風張遺跡出土の合掌土偶は、切手になり、評判となった。縄文土器の文様が印刷された切手があれば、青森県の新たなお土産品になるのではないか。

切手の作製には、日本郵便（http://www.post.japanpost.jp/index.html）を参考にした。土器の文様が入れられる寸法は、約 2.4cm × 2.4cm である。一枚のシートに、同じ画像の入った切手が 10 枚セットで作製される。価格は、1 シートあたり 80 円切手で 1200 円、50 円切手で 900 円である。

（2）カード型 USB（縄文グッズデザイン案 2 上段）

縄文土器の文様を、パソコン機器や周辺機器に活用できないかと思い、広く使われているカード型 USB の商品案を作成した。

カード型 USB の商品案作成にあたっては、平林印刷株式会社（http://www.hi-ad.jp）を参考にした。サイズは 84mm × 52mm × 2mm で、記録容量は 1GB である。300 個から注文可能で、単価は、300 個注文で 1700 円、1000 個注文で 1660 円、3000 個注文で 1550 円である。

(3)マウスパッド(縄文グッズデザイン案 2 下段)

カード型 USB 同様、パソコン周辺用品の一つとして、マウスパッドの商品案を考えた。

商品案には、有限会社オフィスカトウ(http://www.officekato.net/index.html)を参考にした。材質は、牛革(リサイクルレザー)である。サイズは約 170mm × 150mm で、印刷範囲は 140mm × 120mm である。50 枚から注文可能で、単価は、50 枚注文した場合 520 円、100 枚注文で 480 円、200 枚注文で 430 円、300 枚注文で 400 円となっており、別途版代として 8000 円が必要となる。

印刷に使用できるカラーが一色であるため、今回作成した商品案では、牛革マウスパッド(スクエア)の No.116-2032 ダークブラウンのマウスパッドに、プリントカラー 324 ライトブラウンで印刷をするというイメージで商品案を作成した。モノトーンの落ちついた印象のマウスパッドのため、男女問わず職場でも使用することが出来るのではないだろうか。

(4)クリアファイル(縄文グッズデザイン案 3 上段)

クリアファイルはプリントや書類の整理などに便利であり、ミュージアムグッズとしても一般的である。

クリアファイルの商品案作成には、株式会社ゼンダ(http://www.rakuten.co.jp/cffactory/)を参考にした。材質は、ポリプロピレン、サイズは A4 サイズである。300 枚から注文可能で、単価は、5000 枚注文の場合の 26 円から 300 枚注文の場合の約 117 円まで注文数によって異なる。

(5)カラーブロックメモ(縄文グッズデザイン案 3 下段)

メモ用紙は、汎用性が高い。ブロック状で無地の真っ白なものは一般的でよく目にするが、その側面に柄を入れることでオリジナル性が高まる。

商品案を考えるにあたっては、大日紙業株式会社(http://dainichi-p.co.jp/)を参考にした。材質は、上質紙 70kg、サイズは 80mm × 80mm × 80mm、枚数としては 800 枚である。価格は見積もり次第となっている。注文は 100 個から可能である。

(6)タンブラー (縄文グッズデザイン案 4 上段)

温暖化や環境汚染といった環境問題が大きく取り上げられる昨今、環境保護を考えた様々なエコグッズが販売されるようになってきている。タンブラーもその一つで、最近では凝ったデザインの物も多く出てきており、その多様さには目を引くものがある。そのようなことから、縄文土器の文様を入れたタンブラーを作ってみるのもおもしろいのではないかと思い、考えてみることにした。

商品案には、株式会社ロビンファクトリー (http://www.robinfactory.co.jp/index.html#topp)を参考にした。材質は、蓋の部分がポリプロピレン、熱可塑性エラストマー、本体部分がポリプロピレン、カバー部分がポリスチレン、パッキン部分はシリコンが用いられている。耐熱温度は、蓋の部分が 120 度、本体が 120 度、カバーが 90 度、パッキンが 170 度となっている。

サイズは、89mm × 136mm で、容量は 500ml である。単価は、200 個注文した場合の 600 円から 10 個注文した場合の 1440 円までと注文数により幅がある。

(7)エコバッグ(縄文グッズデザイン案 4 中段)

エコバッグは、今や買い物に必需品である。最近では、デザイン性に富んだエコバッグも売られており、エコバッグが大きく注目されていることが伺える。縄文土器の文様がプリントされたエコバッグというのも、斬新ではないだろうかと思い、商品案を考えてみることにした。

エコバッグの製作案を考えるにあたっては、株式会社カプセルボックス(http://www.cbox.nu/)を参考にした。材質は、ポリエステルが使用されている。サイズは横 28cm、縦 53cm、マチ 13cm である。印刷はシルクプリントで、プリントサイズは A5 版(148mm × 210mm)である。単価は、10000 枚注文の 330 円から 100 枚注文の 810 円までと枚数によって変動する。

(8)飴(縄文グッズデザイン案 4 下段)

縄文土器の文様を食品に応用しようと考え、飴の商品案を作成した。

オリジナル飴を考えるにあたっては、株式会社ナカムラ（http://myame.koubou.cc/）を参考にした。取り扱われている飴の味は、ストロベリー、レモン、アップル、イチゴミルク、ピーチ、マスカット、メロン、ヨーグルト、オレンジ、グレープ、ミント、ブルーベリー、キーウィー、うめ、ライチ、バナナ、ミルク、コーラ、コーヒー、サイダーである。飴は、一つ一つ市販の飴のようにフィルムのパッケージに個別包装され、箱詰めにしてもらうことができる。飴のサイズは、直径 20mm、厚さ 10mm である。1 種類 3500 個から注文可能で、値段は 44100 円から、一個あたりとしては約 12 円からとなっている。

20 種類もの味により、多くのカラーバリエーションを実現することができる。色とりどりの縄文土器の文様がついている飴というのは、変り種のお土産としても受け入れてもらえるのではないだろうか。今回考えたオリジナル飴は、金太郎飴のような製法で作られているため、舐めていて柄が消えていくということもない。

（9）PP まな板（縄文グッズデザイン案 5 上段）

市販のまな板には、無地でシンプルなのもが多い。そこで、縄文土器の文様を入れた、カラフルなまな板の商品案を考えてみた。カラフルな文様入りのまな板を使うことによって、食材を切る作業が少し楽しくなるのではないだろうか。

PP まな板の商品案作成には、カード型 USB 同様、平林印刷株式会社（http://www.hi-ad.jp）を参考にした。サイズは、210mm × 315mm で、素材は PP0.75 クリアである。単価は、5000 枚注文の 182 円から 500 枚注文の 793 円までと注文枚数により変動する。

（10）ブックカバー（縄文グッズデザイン案 5 下段）

書店で本を購入すると、その書店オリジナルの紙製のブックカバーをつけてくれる。紙製のブックカバーであっても、ブックカバーとしての役割は十分に果たしてくれる。しかし、気分によってブックカバーを変えるというのも、読書の楽しみの一つである。縄文土器の文様が印刷されたブックカバーがあれば、より読書の時間が楽しめるのではないだろうか。

ブックカバーは、株式会社スズキネ（http://www.suzukine.co.jp/）を参考にした。材質は、綿 100%、サイズは約 16.5cm × 30. 5cm の文庫本サイズで、厚さは 1.5cm まで対応する。注文は 100 枚から可能で、価格は見積もり次第となっている。

（11）名刺ケース（縄文グッズデザイン案 6 上段）

2010 年 12 月 4 日に、東北新幹線が全線開業し、新青森から東京まで新幹線で行けるようになった。新幹線の開通により、これからはより多くの人が青森に訪れることが予想される。新幹線を利用して、出張で来るサラリーマンなどもいるだろう。サラリーマン向けの商品はないだろうかと考えた際、名刺ケースが思い浮かび、商品案を作成してみた。

商品案作成には、株式会社はなまるフーズ（http://www.5543.jp/）を参考にした。材質はメタルで、他の商品とは異なり、文様を印刷するのではなく、彫刻して文様を入れるという手法である。サイズは縦 92mm、横 60mm、高さ 5mm で、彫刻可能範囲は、83mm × 45mm である。価格は 2800 円である。

今回は、名刺ケースのブラックを参考に商品案を考えたが、この他にもブルー、ピンク、シルバーのカラーが用意されている。

（12）シガレットケース（縄文グッズデザイン案 6 下段）

シガレットケースについては、名刺ケース同様、サラリーマン向けの商品として考えたものである。ここでも、株式会社はなまるフーズ（http://www.5543.jp/）を参考にした。材質はメタルで、文様は彫刻で入れる手法である。サイズは 92mm × 70mm × 18mm で、彫刻可能範囲は 75mm × 50mm である。煙草は 16 本収納でき、価格は 4200 円となっている。

（13）コンパクトミラー（縄文グッズデザイン案 7 上段）

女性向けの商品として、コンパクトミラーと油とり紙の商品案を考えた。

商品案作成にあたっては、株式会社イメージ・マジック（http://originalprint.jp/）を参考にした。材質はメ

タルで、縦 6cm、横 7cm、厚さ 1cm である。価格は、640 円で、それに加工費 1950 円が加算され、2590 円となる。

（14）油とり紙（縄文グッズデザイン案 7 下段）

油とり紙に関しては、株式会社スコブル（http://www.skbr.jp/skbr/index.html）を参考にした。ケースのサイズは、110mm × 77mm で、10 枚入りである。1000 個から注文可能で、単価は、10000 個注文の 21 円から 1000 個注文の約 48 円と注文個数により幅がある。

（15）歯ブラシ（縄文グッズデザイン案 8 上段）

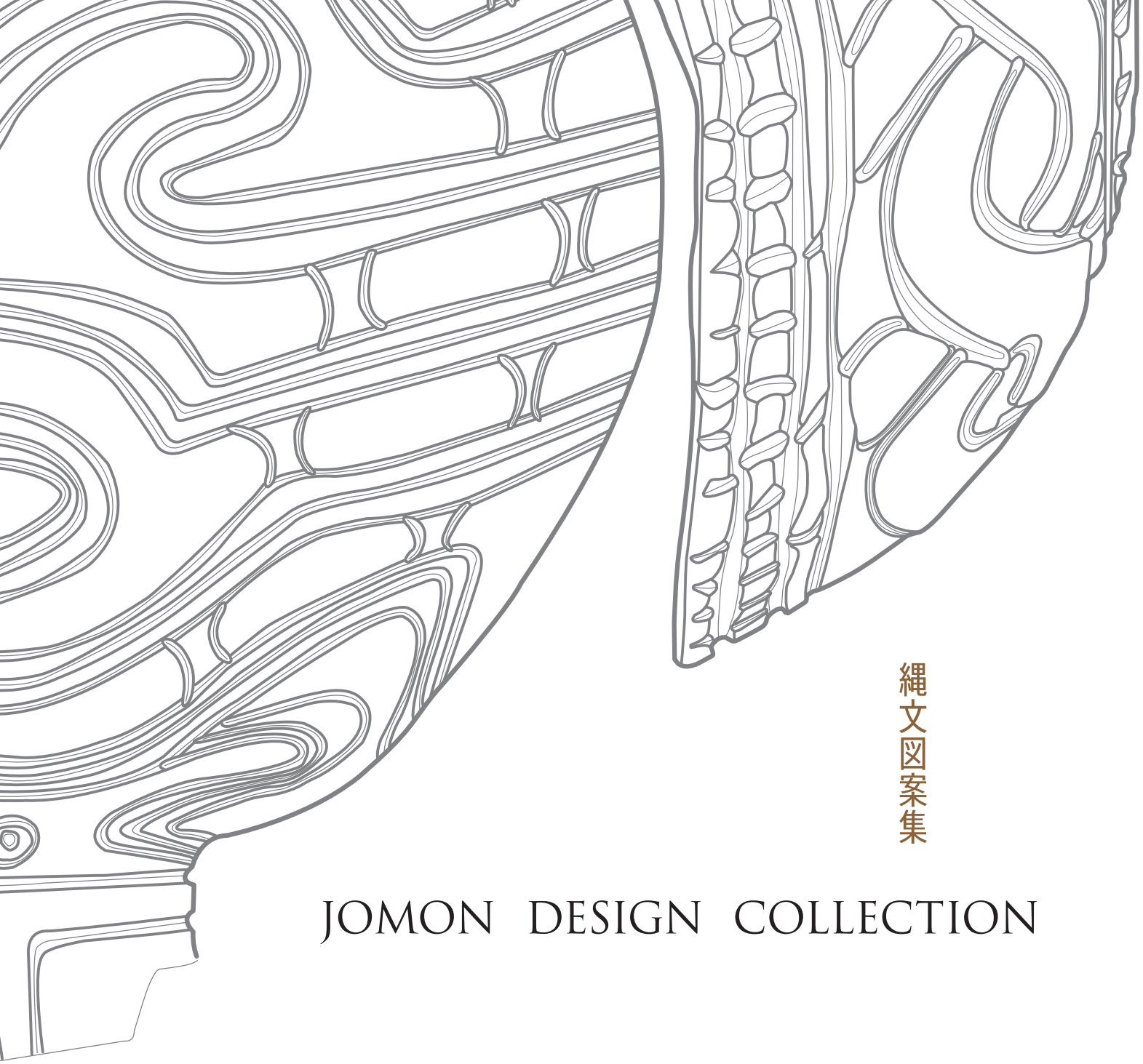
市販されている歯ブラシは、カラフルなものはあっても、文様にこだわりのあるものは少ない。日常生活に不可欠な歯ブラシを通して、多くの人々に縄文土器の文様を楽しんでもらえるのではないだろうか。

歯ブラシの商品案作成にも、平林印刷株式会社（http://www.hi-ad.jp）を参考にした。サイズは、160mm × 12mm × 5mm で、印刷範囲は 8mm × 80mm である。単価は、3000 本注文の 150 円から 100 本注文の 237 円と注文本数により異なる。

（16）石鹸（縄文グッズデザイン案 8 下段）

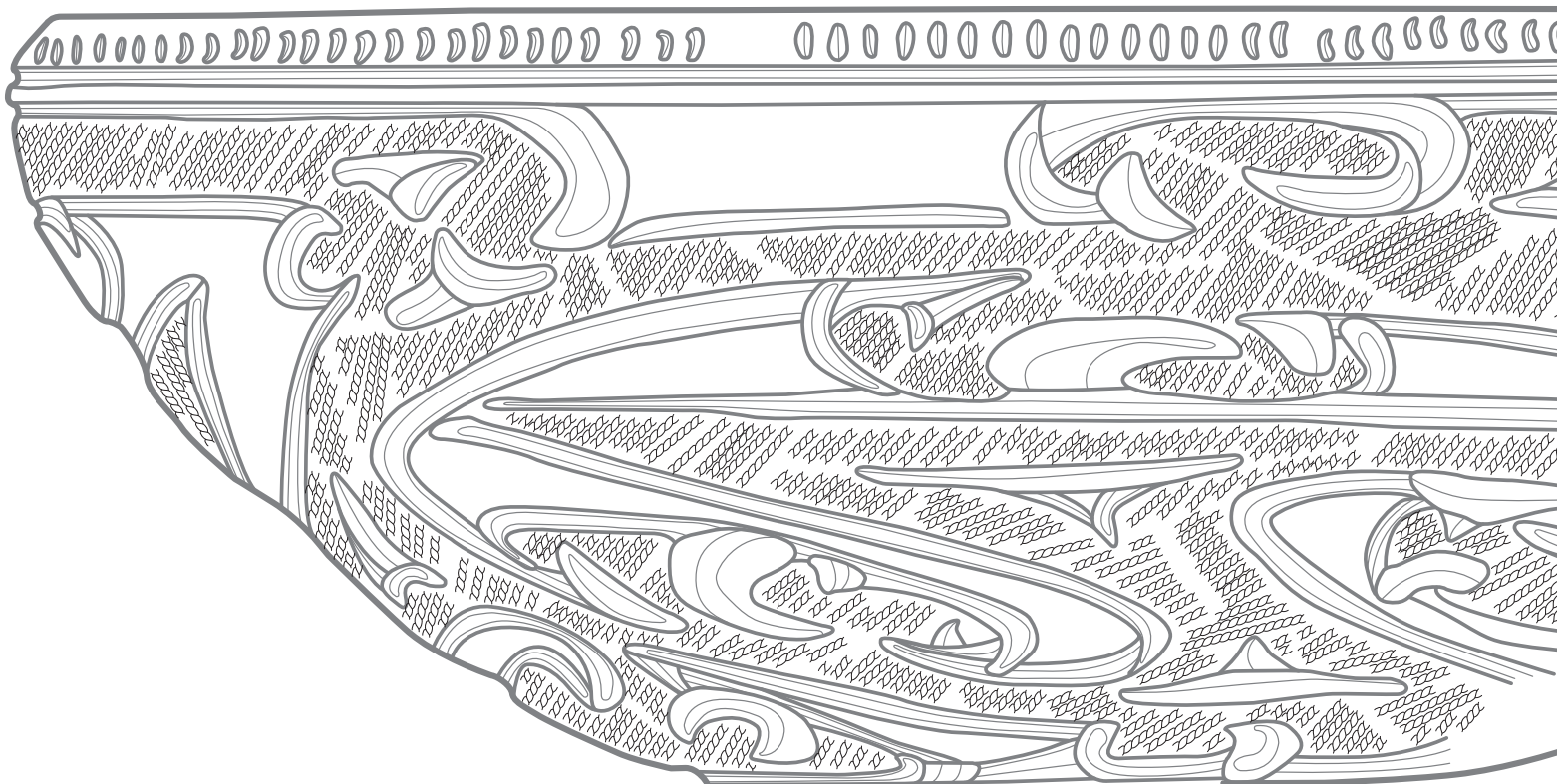
石鹸は、必要不可欠な日用品であり、お中元やお歳暮などでも好まれる贈り物でもある。近年では、香りや形、原料などにこだわった石鹸の専門店もある。お世話になった方への贈り物として、縄文土器の文様の入った石鹸を贈るというのはどうだろうか。

石鹸の商品作製には、株式会社大創（http://www21.ocn.ne.jp/~taiso/index.html）を参考にした。石鹸のサイズは、76mm × 50mm × 19mm で、イラストサイズは 30mm × 40mm である。重量は 70g となっている。色はピンク、紫、緑、白の 4 色で、それぞれローズ、ラベンダー、ミント、レモンバームの香りが付いている。単価は、パッケージ代を含めて 360 円である。この他に、型代が 20000 円加算される。50 個から注文可能で、100 個から 159 個注文した場合、型代は 5000 円割り引かれ、160 個から 199 個注文した場合は 10000 万円、200 個以上注文した場合は全額サービスという割引システムがある。今回参考とした石鹸は、特許技術で作られており、使い終わるまでイラストが消えないため、長い期間土器の文様が入った石鹸を使用することが出来る。



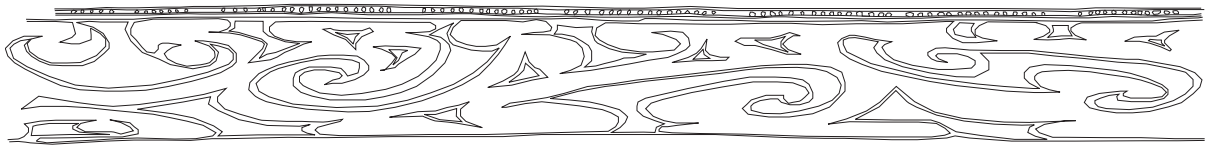
縄文図案集

JOMON DESIGN COLLECTION



成田資料69(大洞C1式)　写真

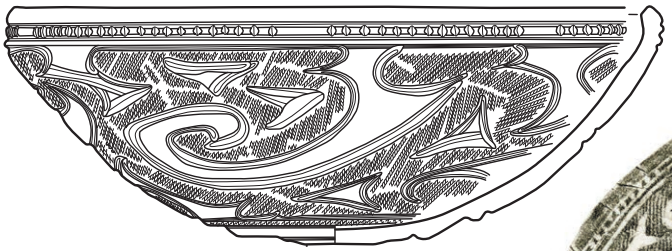
展開写真



①トレース

②清書

図版１　横長図案作成手順



成田資料 69 (大洞 C1 式)　実測図

①拓本

②分割配置

③トレース

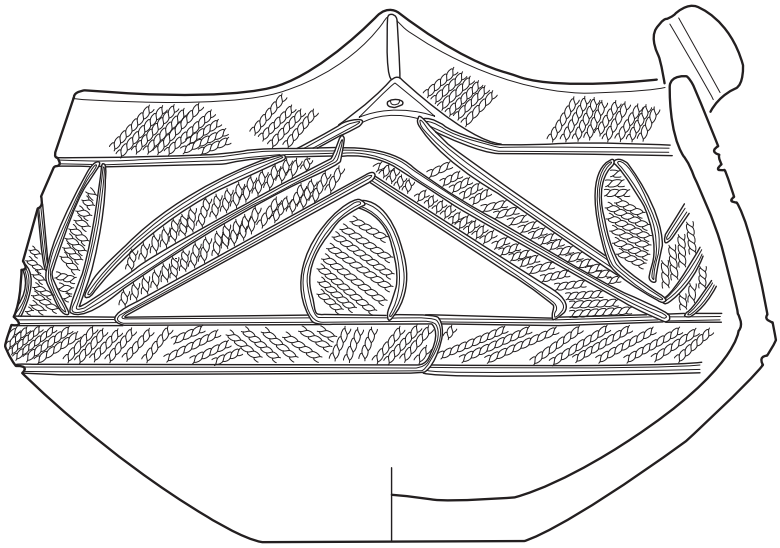
④清書

図版 2　円形図案作成手順

成田資料１（十腰内Ⅰ式）　出土地不明

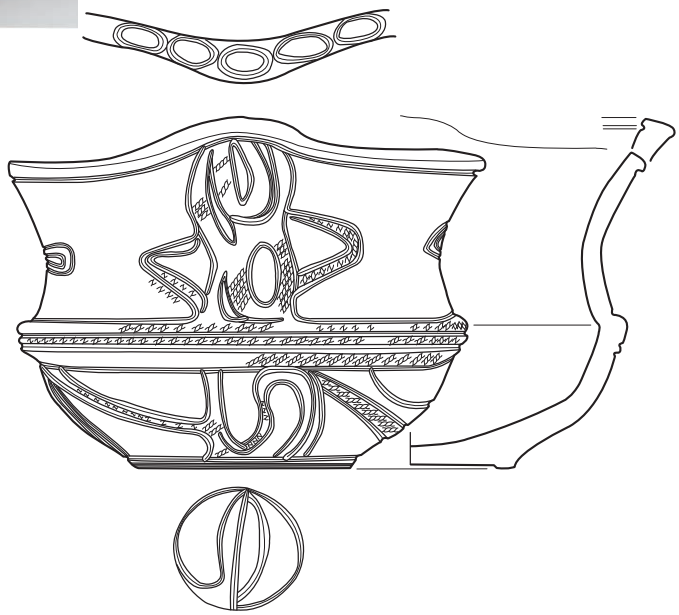
図版３　縄文デザイン１

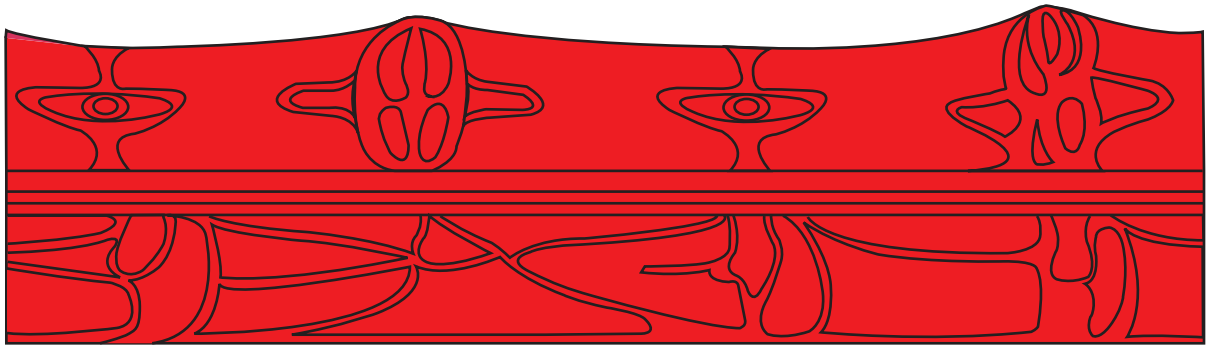
成田資料６（十腰内Ⅰ式（古））　出土地不明



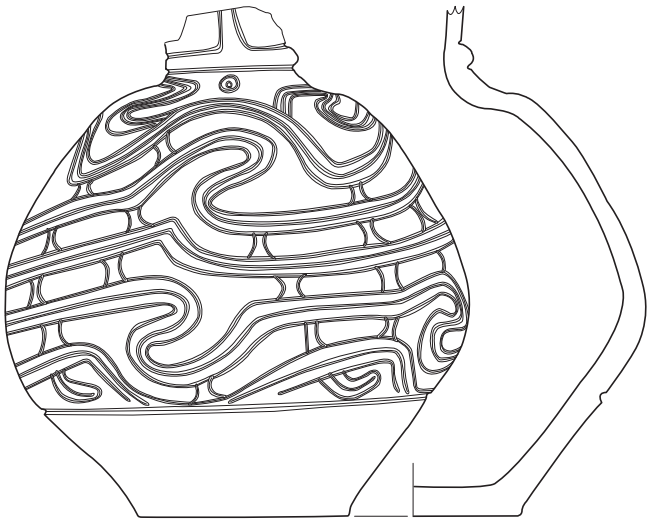
図版４　縄文デザイン２

成田資料８（十腰内Ⅰ式（古））
鯵ヶ沢町建石鳴沢地区出土

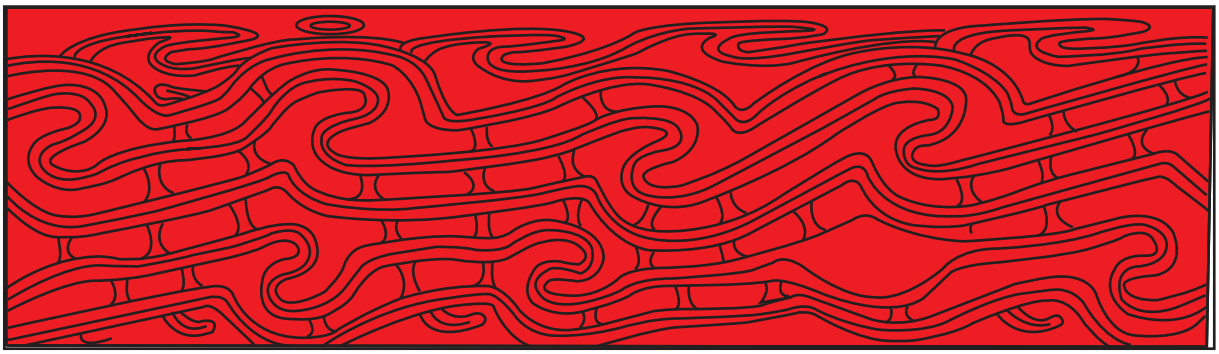




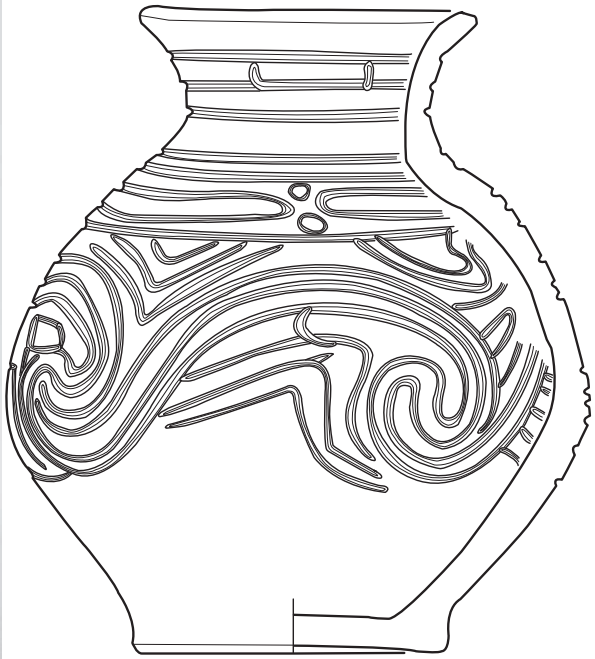
図版５　縄文デザイン３



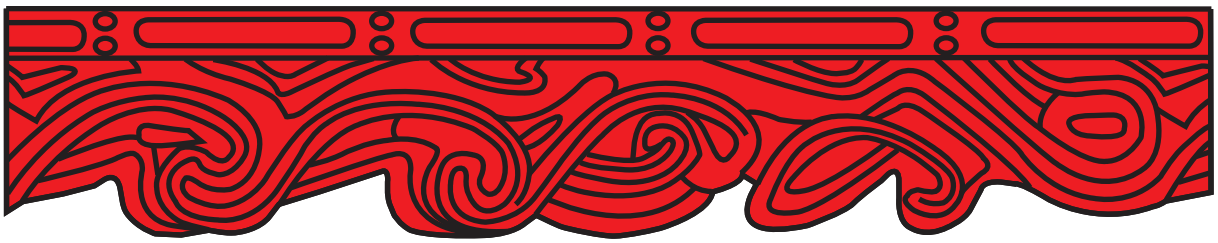
成田資料 12（十腰内Ⅰ式（新））
鯵ヶ沢町建石鳴沢地区出土



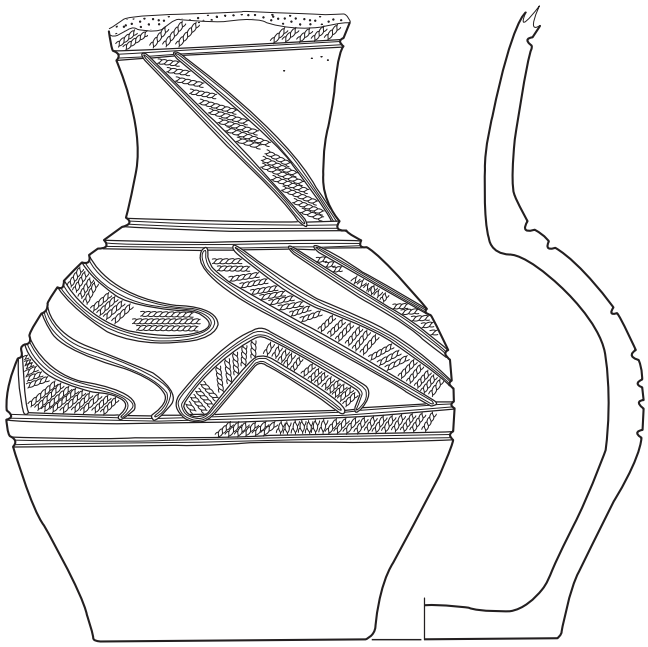
図版 6　縄文デザイン 4



成田資料 14（十腰内Ⅰ式（新））
鯵ヶ沢町建石鳴沢地区出土



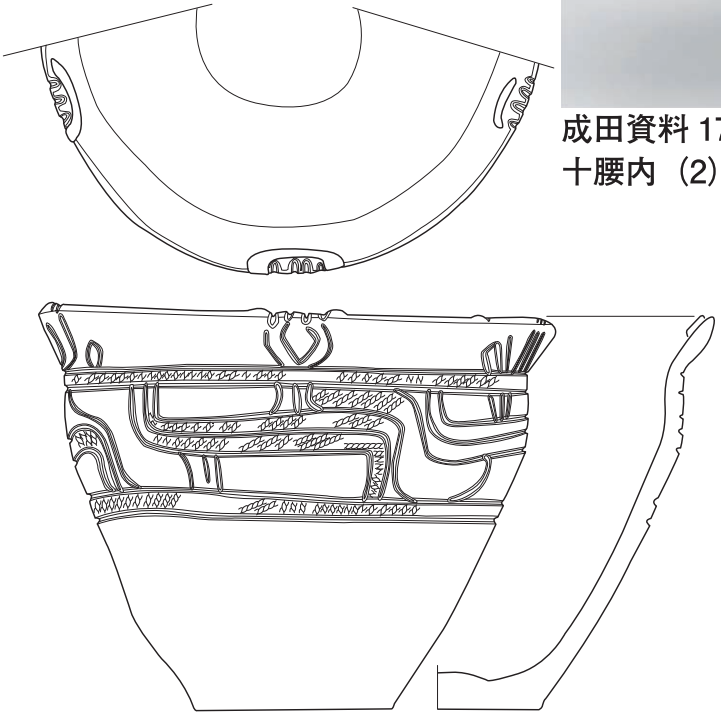
図版７　縄文デザイン５

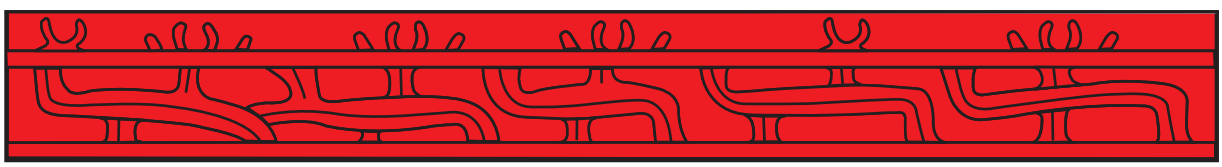


成田資料 15（十腰内Ⅰ式（新））
青森市細越外長沢地区出土

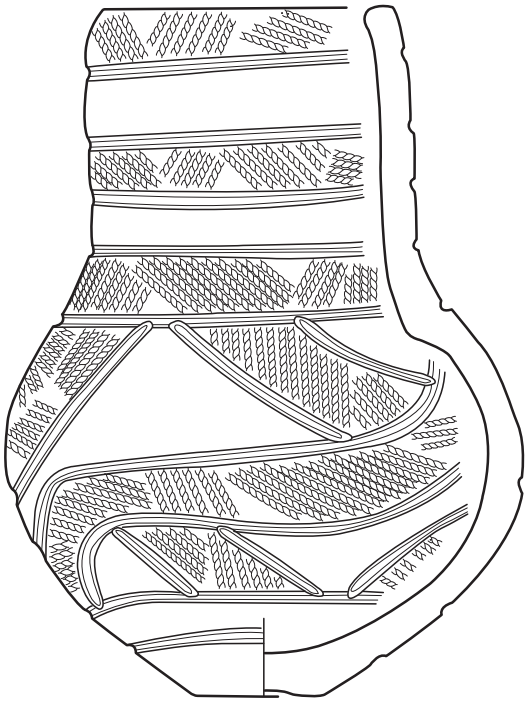
図版 8　縄文デザイン 6

成田資料 17（十腰内Ⅰ式（新））
十腰内（2）遺跡



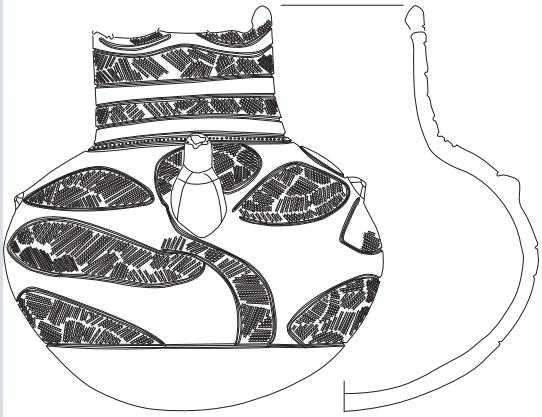


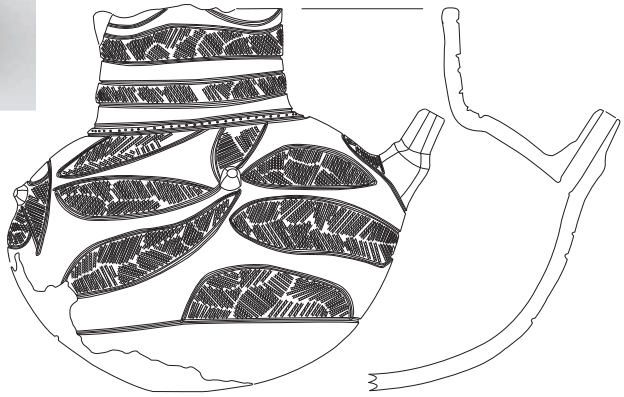
図版９　縄文デザイン７



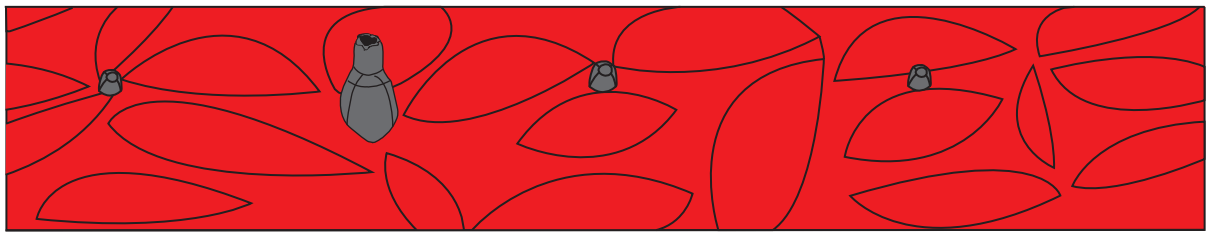
成田資料20（十腰内Ⅳ式）　出土地不明

図版 10　縄文デザイン 8



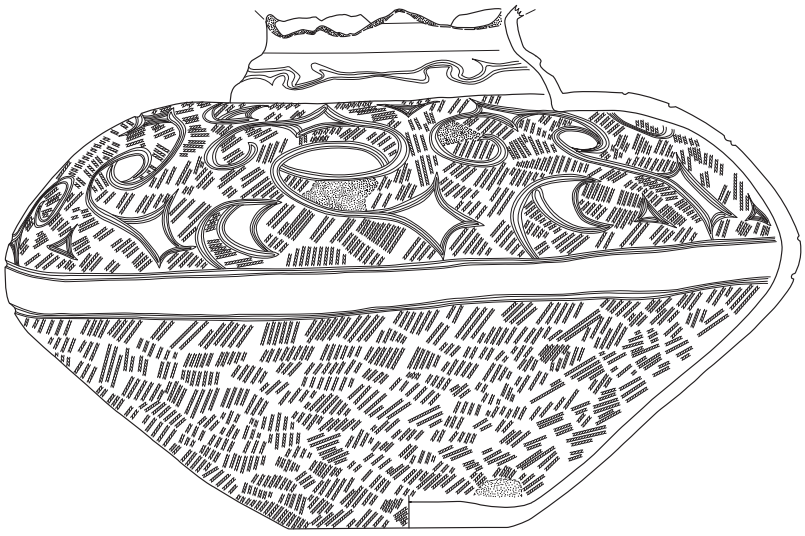


成田資料 25（十腰内Ⅳ式）　出土地不明

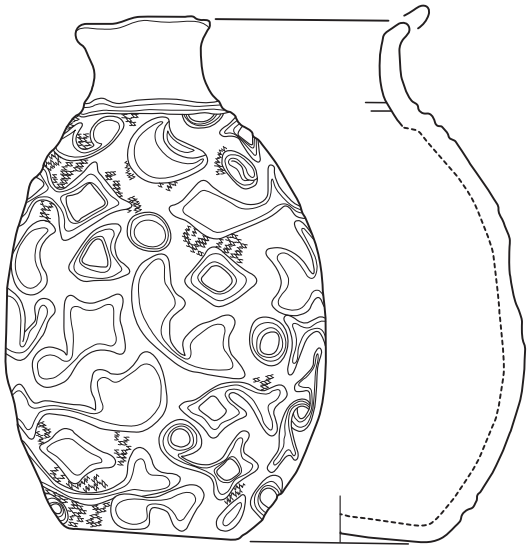


図版 11　縄文デザイン 9

成田資料 38（大洞 BC 式）　青森市浪館地区出土



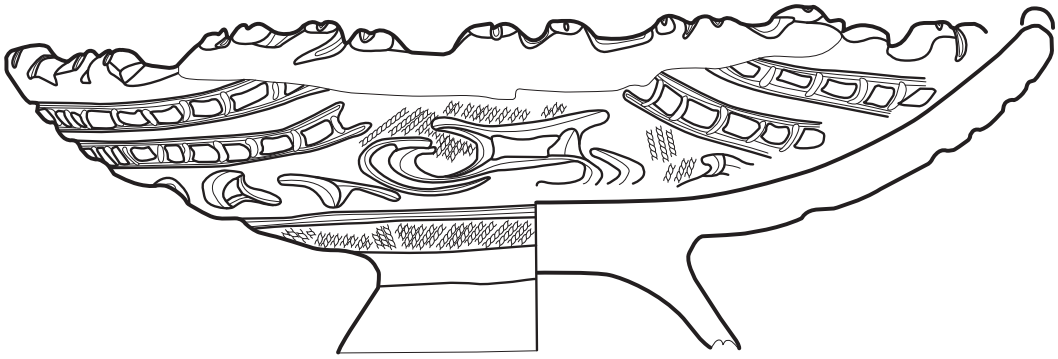
図版 12　縄文デザイン 10



成田資料 40（大洞 BC 式）
出土地不明

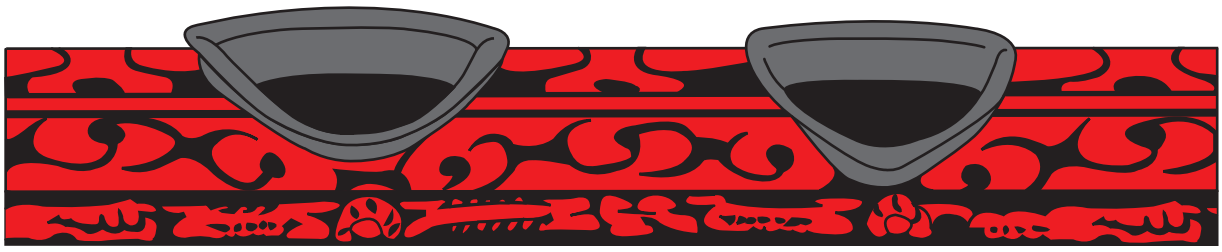
図版 13　縄文デザイン 11

成田資料 45（大洞 BC 式）　出土地不明

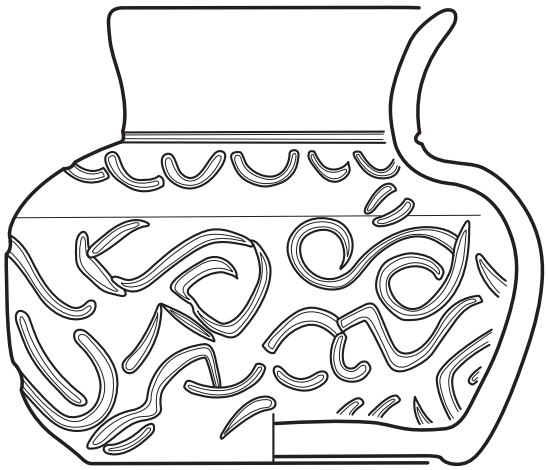


図版 14　縄文デザイン 12

成田資料 49（大洞 BC 式）　塩見形（2）遺跡

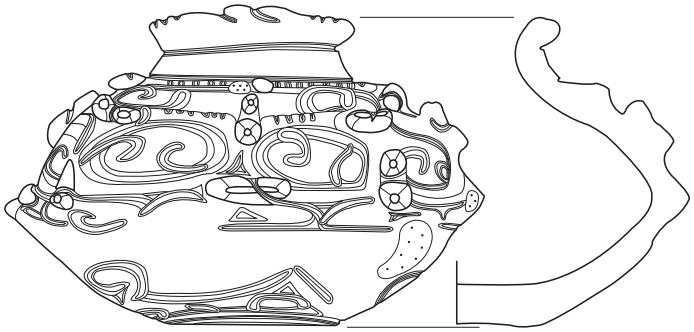


図版 15　縄文デザイン 13

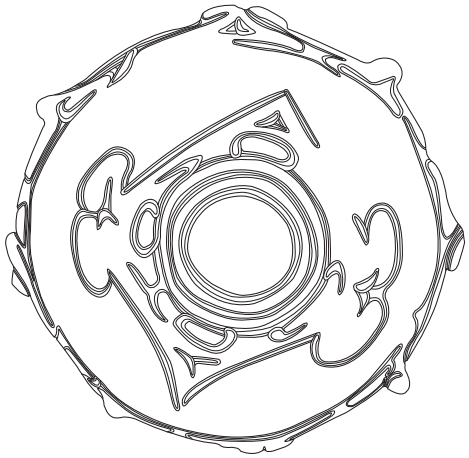


成田資料 50（晩期前葉）　出土地不明

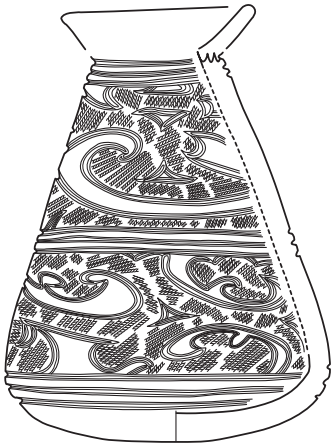
図版 16　縄文デザイン 14



成田資料52（大洞C1式）出土地不明



図版 17　縄文デザイン 15

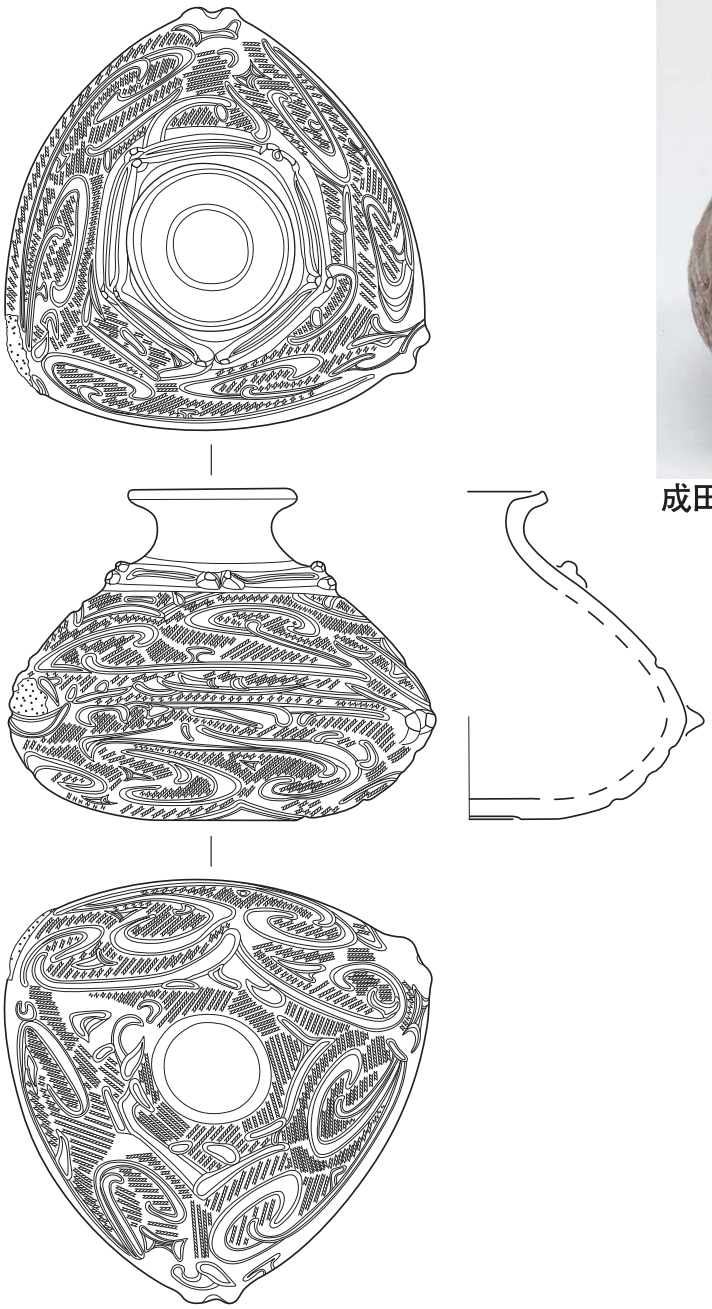


成田資料 54（大洞 C1 式）出土地不明

図版 18　縄文デザイン 16

成田資料 59（大洞 C1 式）
出土地不明

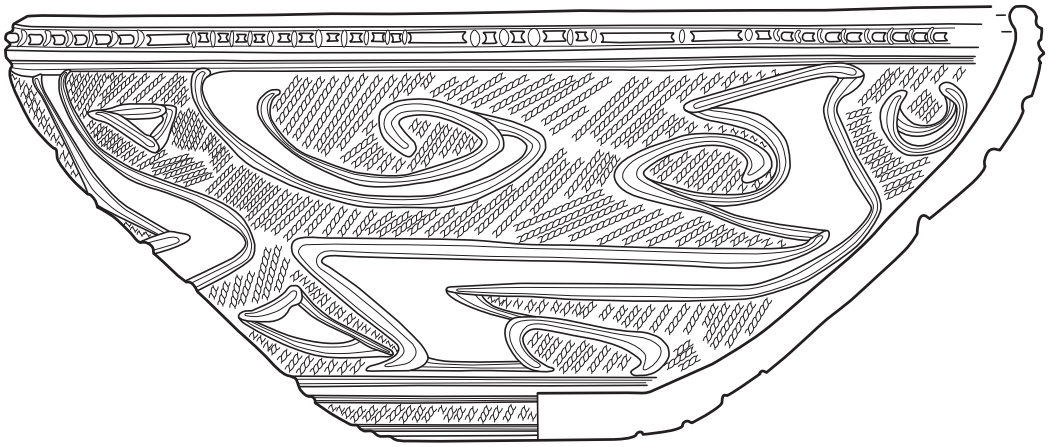
図版 19　縄文デザイン 17



成田資料63（大洞C1式）亀ヶ岡遺跡

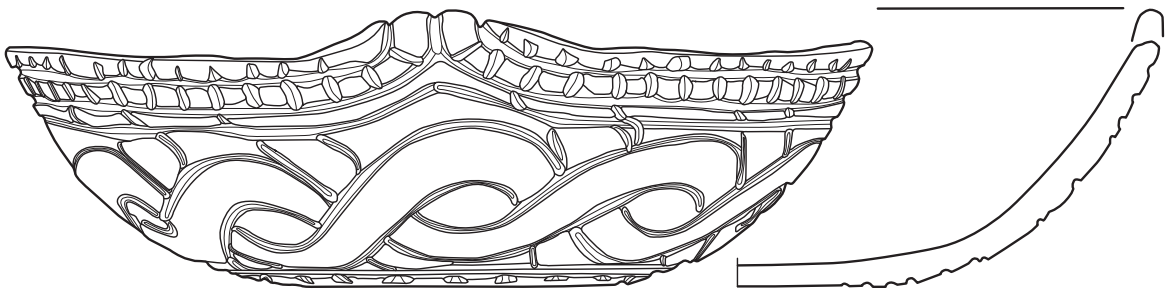
図版 20　縄文デザイン 18

成田資料 65（大洞 C1 式）合戦沢（1）遺跡



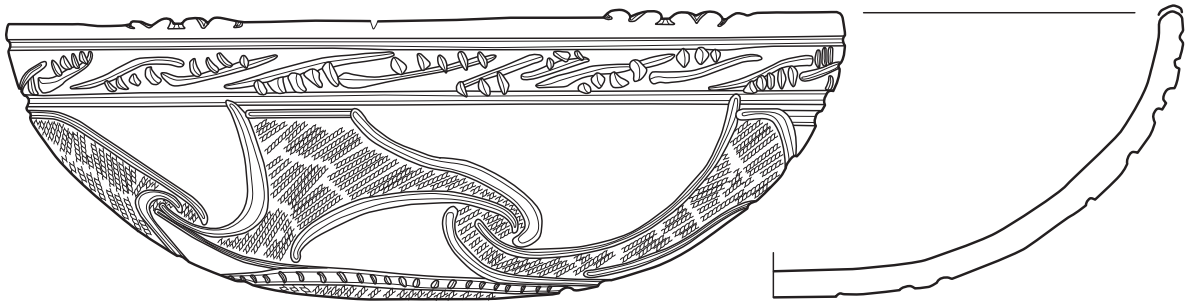
図版 21　縄文デザイン 19

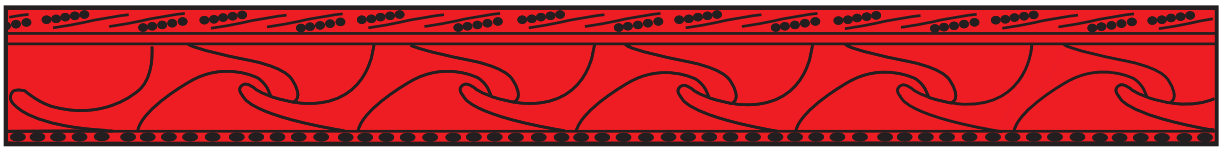
成田資料 67（大洞 C1 式）出土地不明



図版 22　縄文デザイン 20

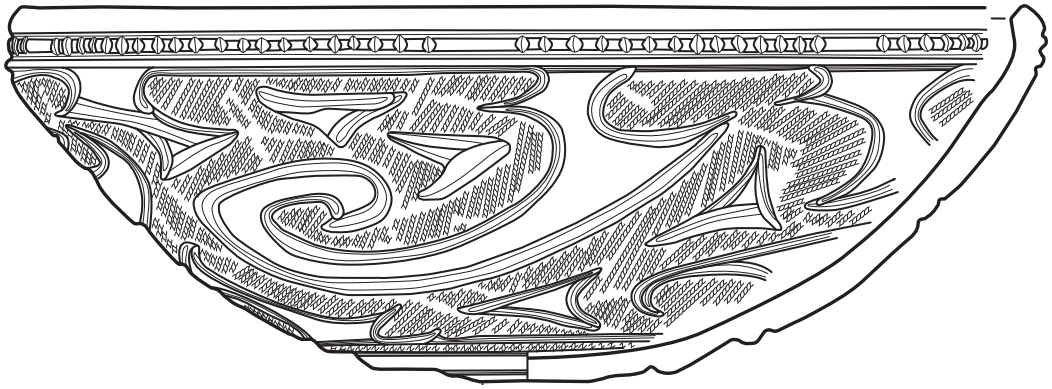
成田資料 68（大洞 C1 式）出土地不明





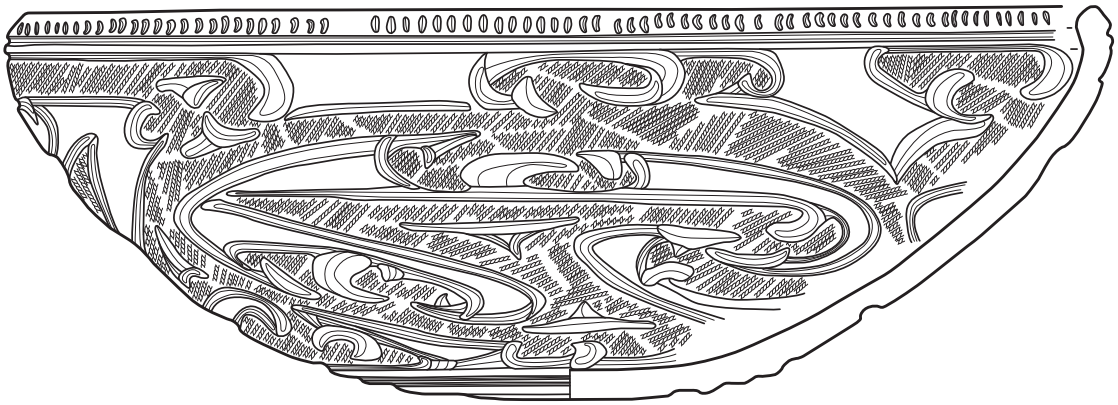
図版 23　縄文デザイン 21

成田資料 69（大洞 C1 式）出土地不明



図版 24　縄文デザイン 22

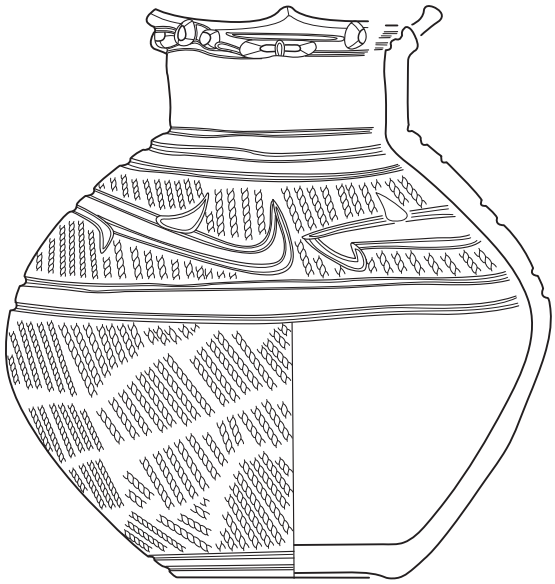
成田資料 71（大洞 C1 式）出土地不明



図版 25　縄文デザイン 23

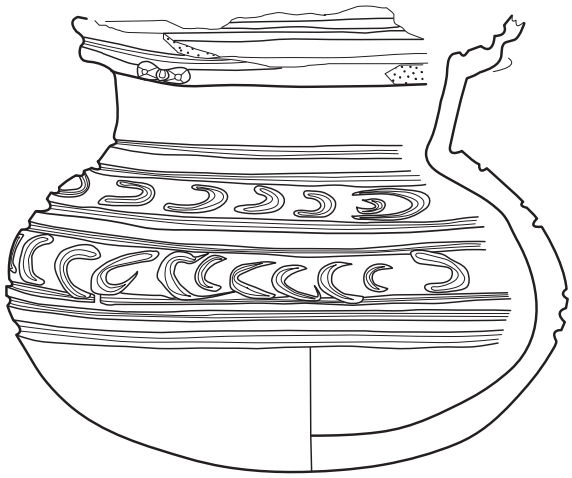
成田資料 102（大洞 C2 式）出土地不明

図版 26　縄文デザイン 24

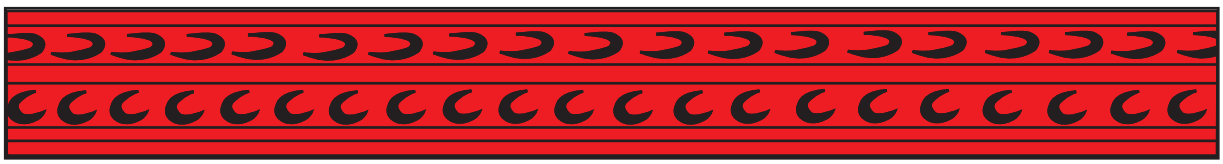


成田資料 109（大洞 C2 式）出土地不明

図版 27　縄文デザイン 25



成田資料 110（大洞 C2 式）出土地不明

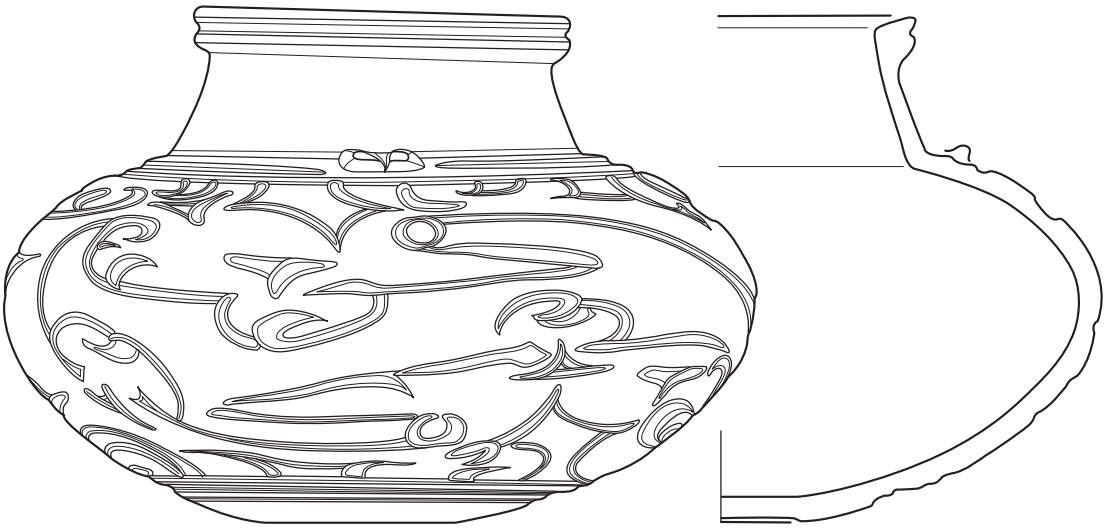


図版 28　縄文デザイン 26

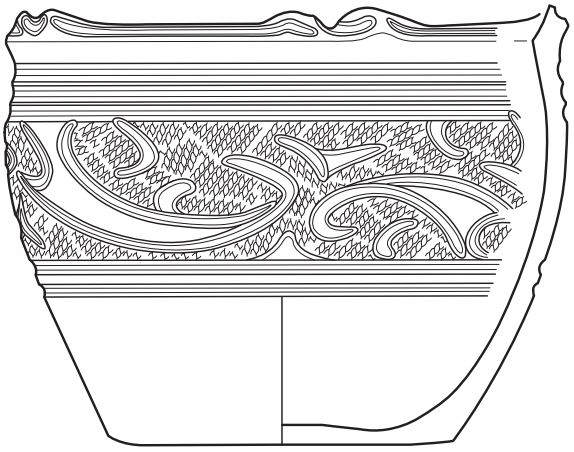
成田資料113（大洞C2式）亀ヶ岡遺跡

図版 29　縄文デザイン 27

成田資料 114（大洞 C2 式）出土地不明



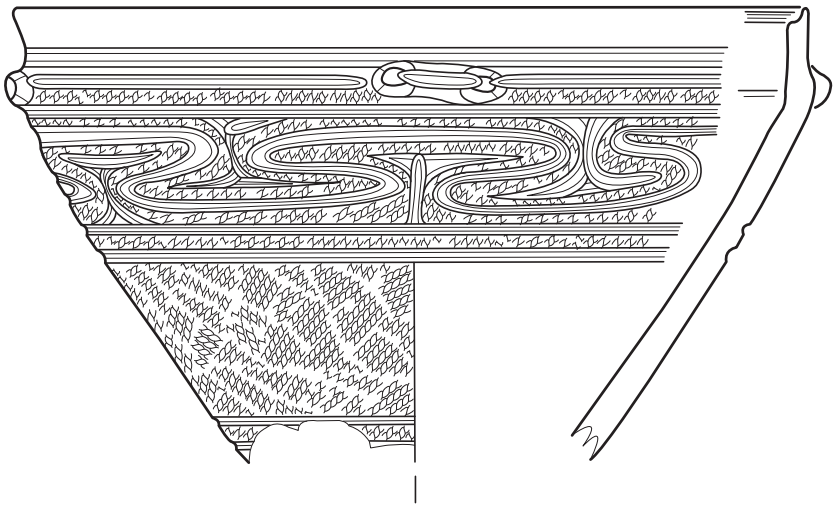
図版 30　縄文デザイン 28



成田資料 119（大洞 C2 式）出土地不明

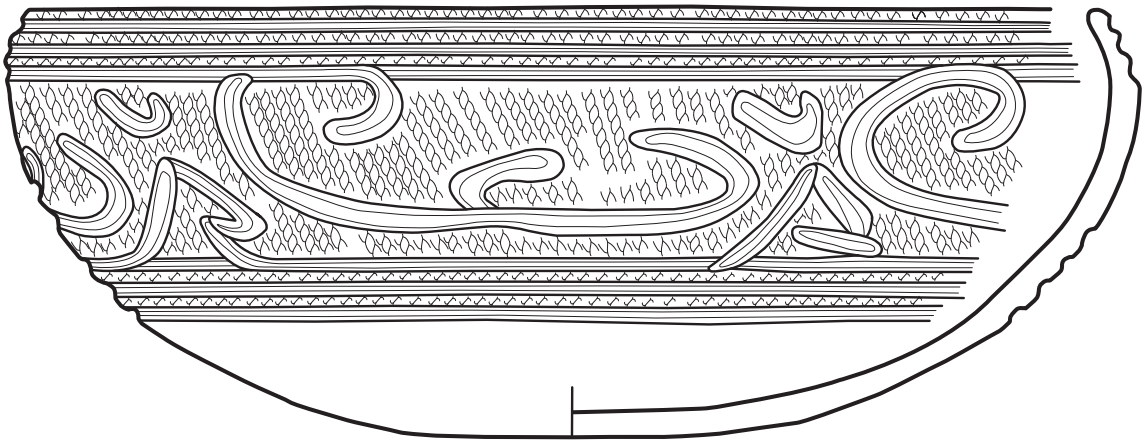
図版 31　縄文デザイン 29

成田資料 122（大洞 C2 式）出土地不明



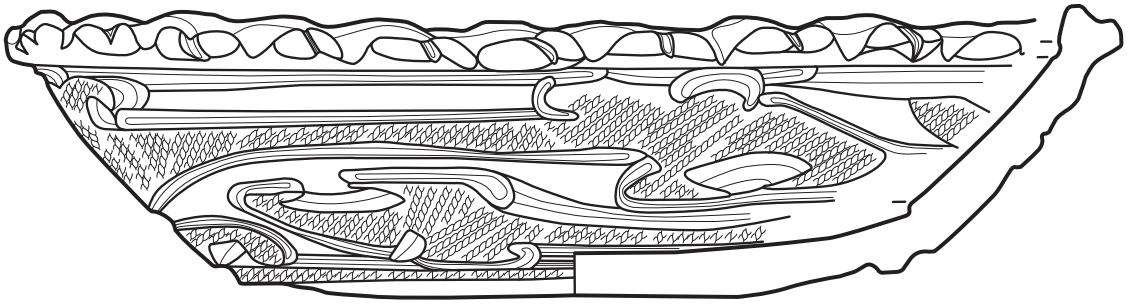
図版 32　縄文デザイン 30

成田資料 128（大洞 C2 式）岡町（1）遺跡



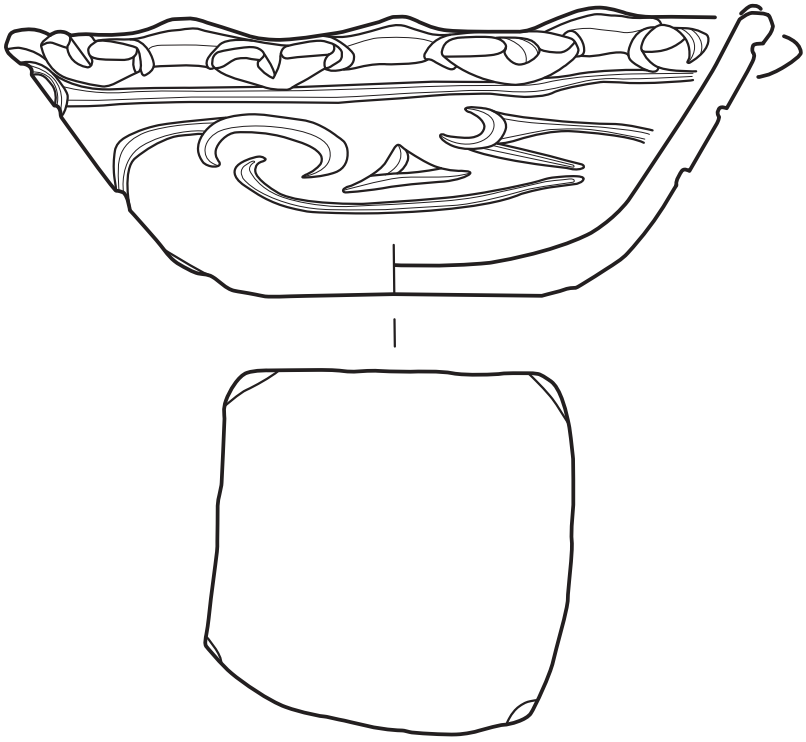
図版 33　縄文デザイン 31

成田資料 129（大洞 C2 式）出土地不明



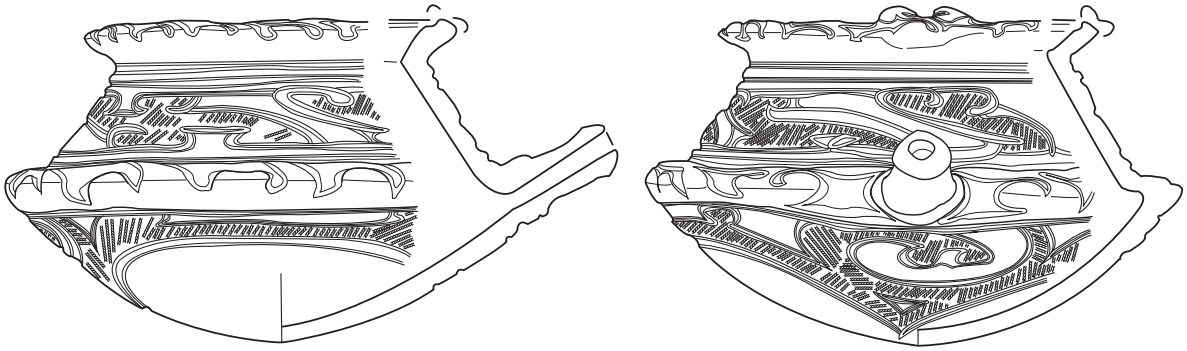
図版 34　縄文デザイン 32

成田資料 130（大洞 C2 式）



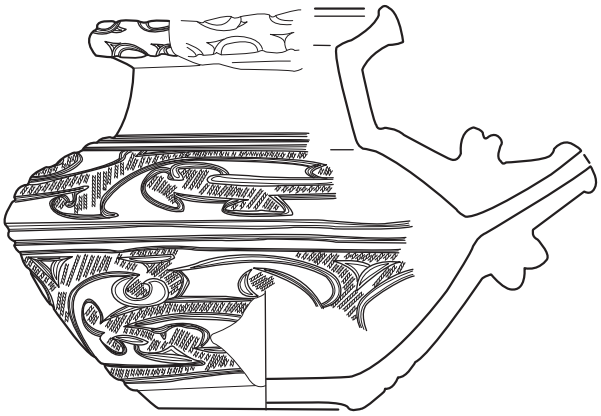
図版 35　縄文デザイン 33

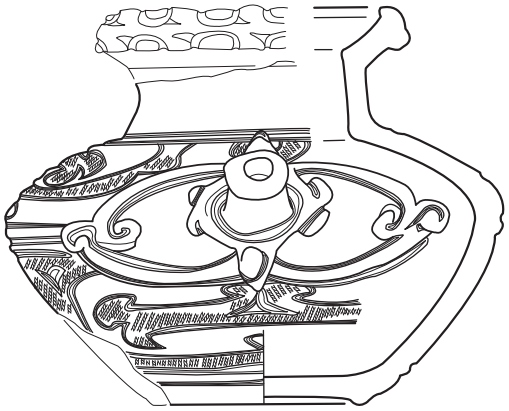
成田資料 136（大洞 C2 式）出土地不明



図版 36　縄文デザイン 34

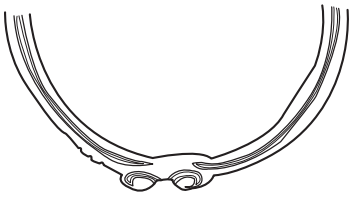
成田資料 137（大洞 C2 式）出土地不明

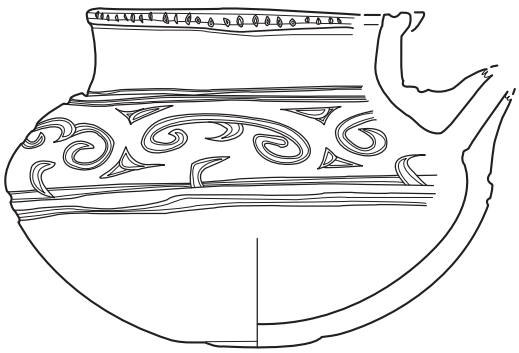


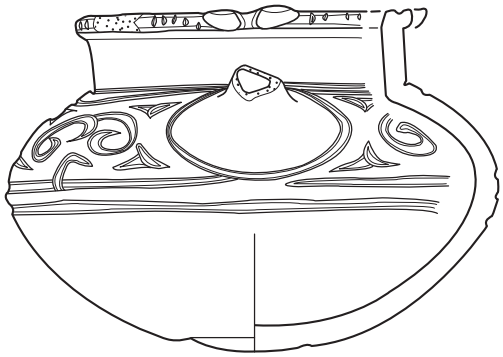


図版 37　縄文デザイン 35

成田資料 139（大洞 C2 式）出土地不明

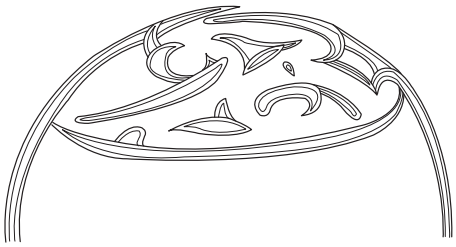


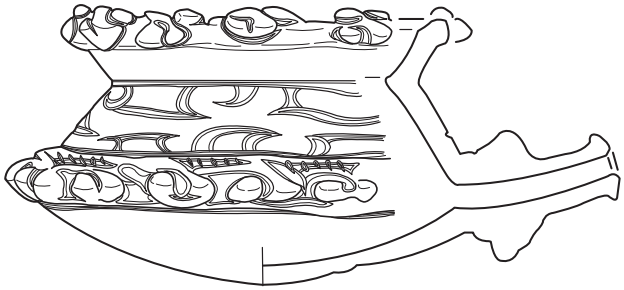


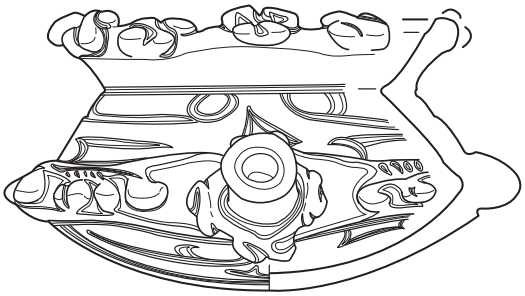


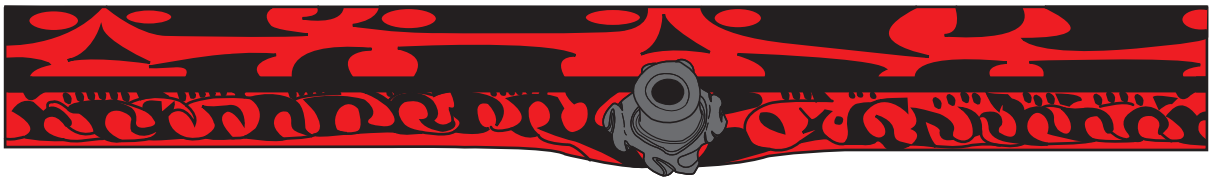
図版 38　縄文デザイン 36

成田資料 141（大洞 C2 式）亀ヶ岡遺跡

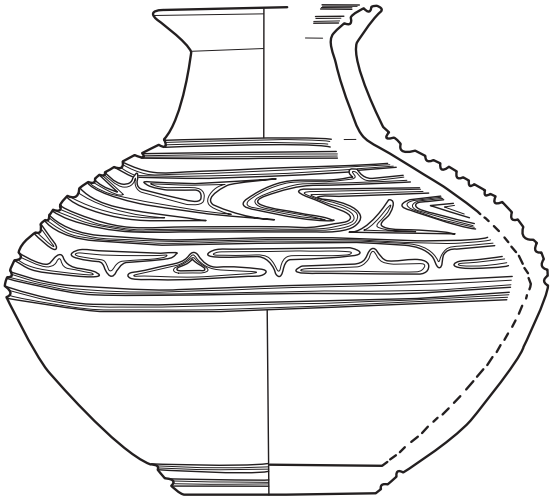






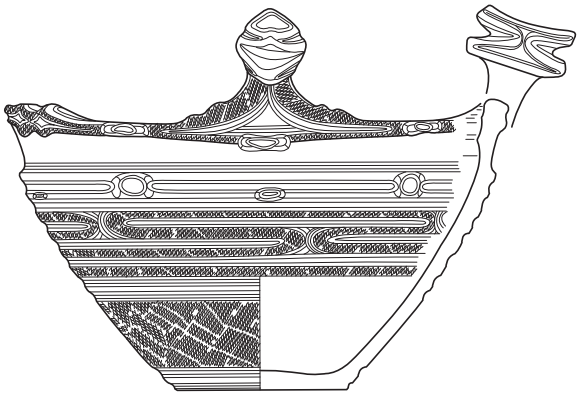


図版 39　縄文デザイン 37



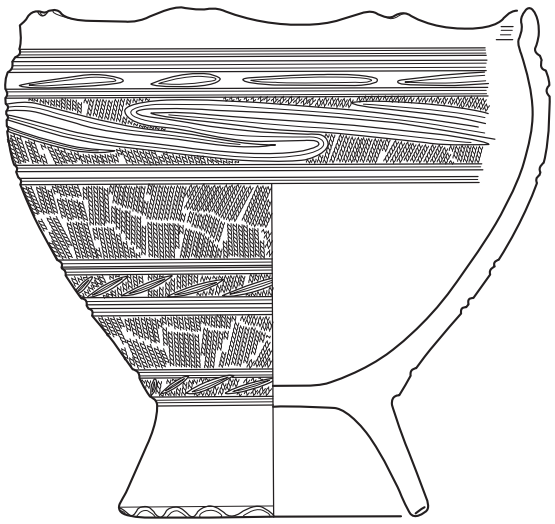
成田資料 152（大洞 A 式）亀ヶ岡遺跡

図版 40　縄文デザイン 38



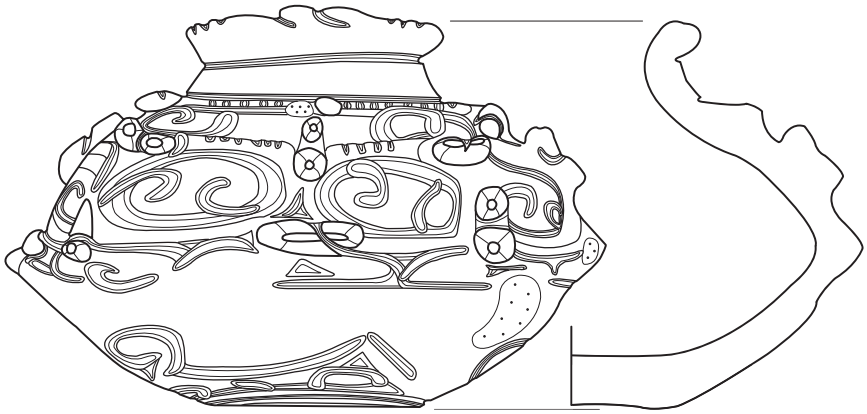
成田資料 154（大洞 A 式）亀ヶ岡遺跡

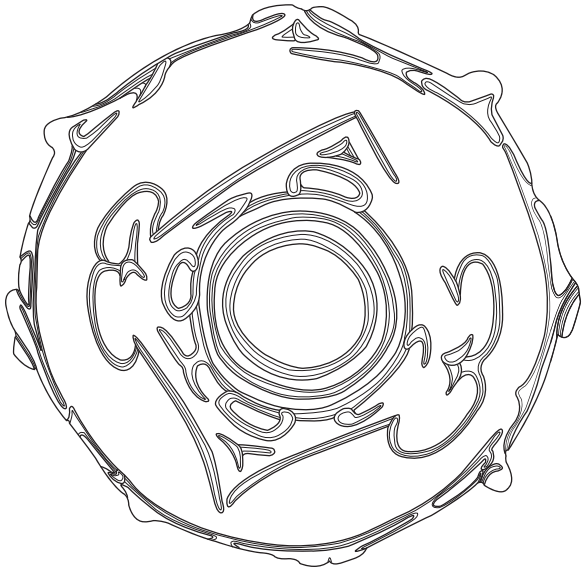
図版 41　縄文デザイン 39



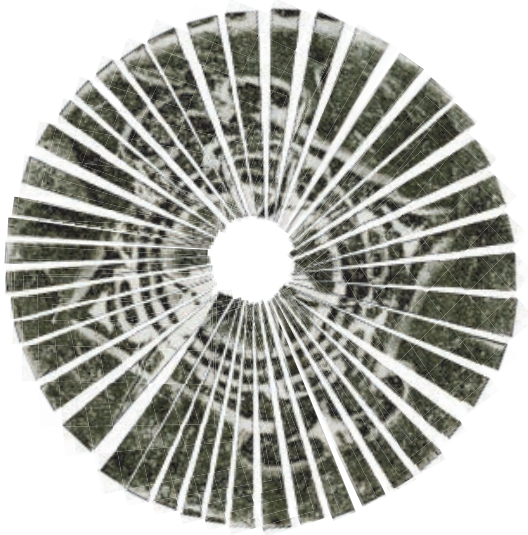
成田資料 160（大洞 A´ 式）出土地不明

図版 42　縄文デザイン 40

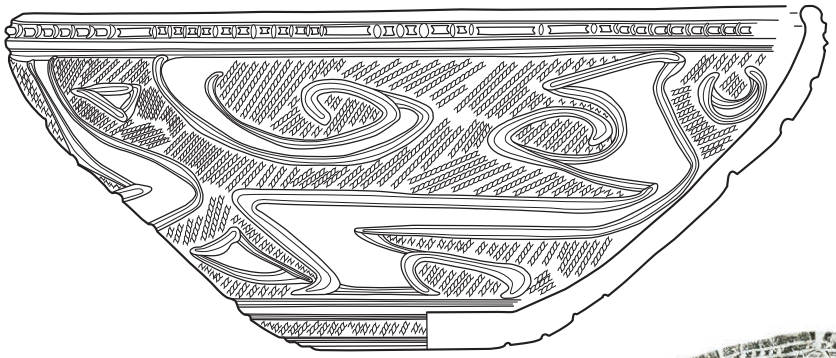




成田資料 52（大洞 C1 式）
出土地不明

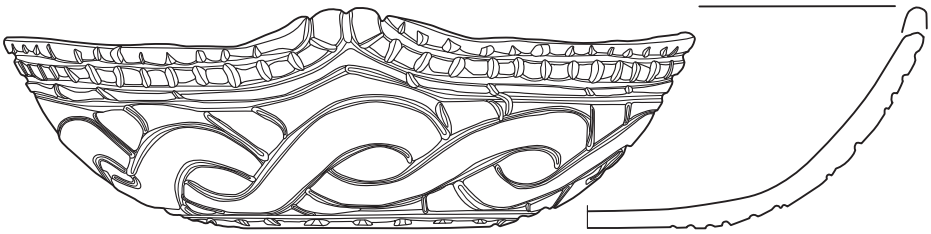


図版 43　縄文デザイン 41

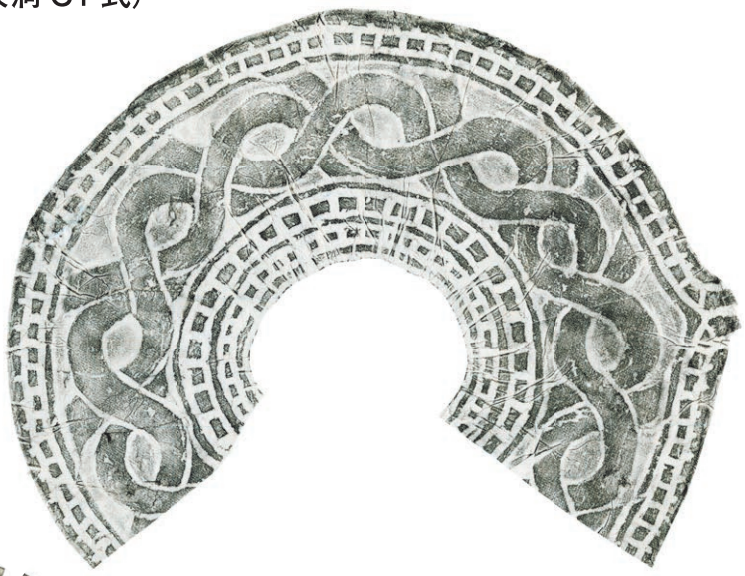


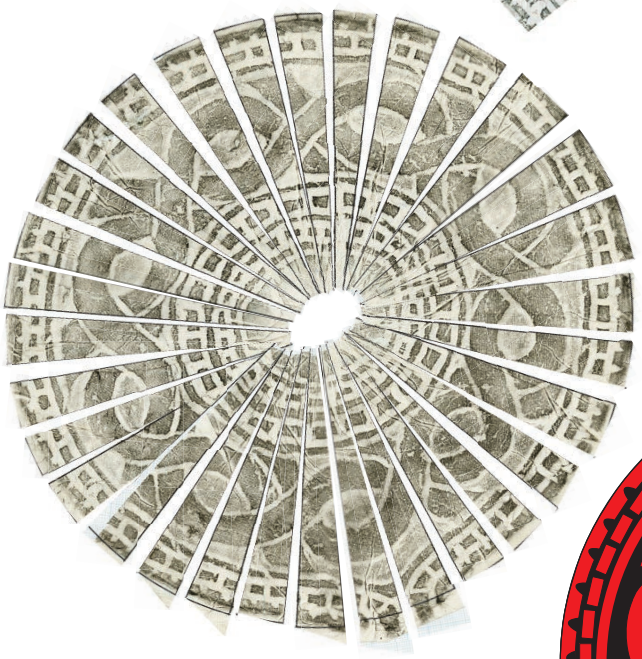
成田資料 65（大洞 C1 式）合戦沢（1）遺跡

図版 44　縄文デザイン 42

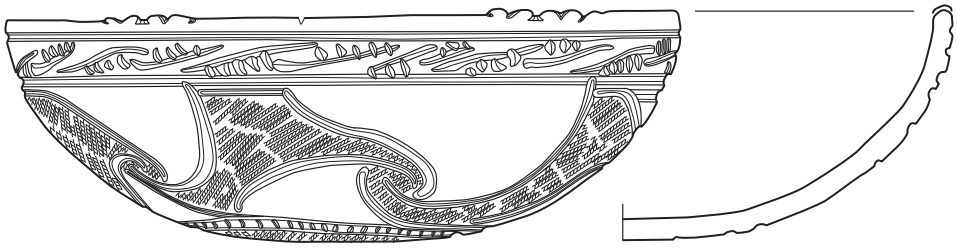


成田資料 67（大洞 C1 式）



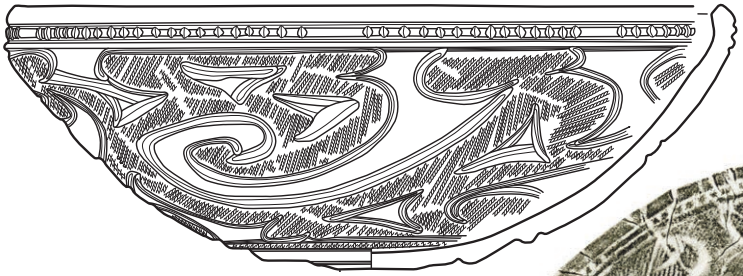


図版 45　縄文デザイン 43



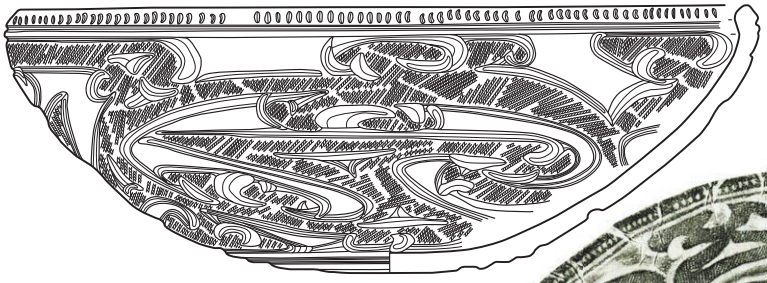
成田資料 68（大洞 C1 式）出土地不明

図版 46　縄文デザイン 44

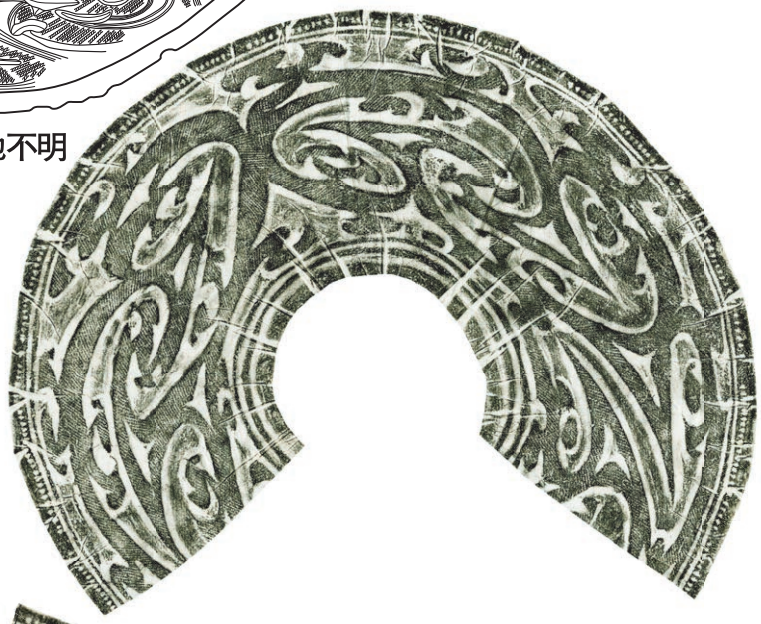


成田資料69（大洞C1式）出土地不明

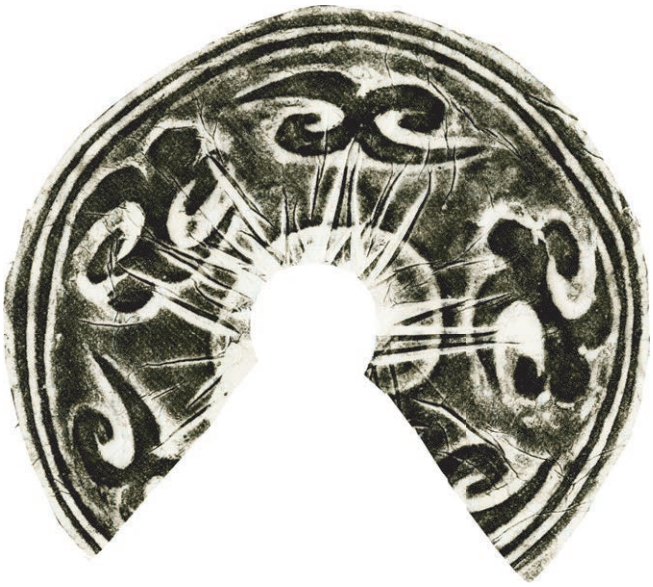
図版 47　縄文デザイン 45



成田資料71（大洞C1式）出土地不明

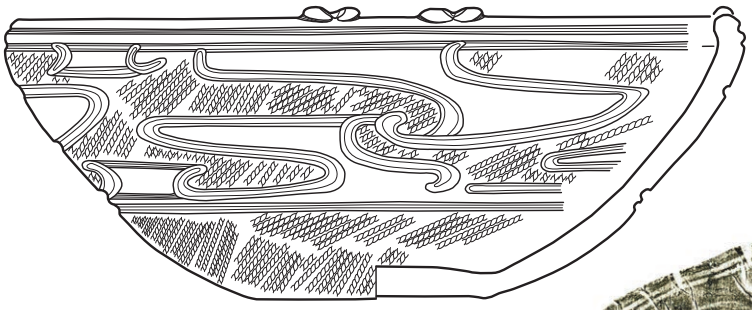


図版 48　縄文デザイン 46

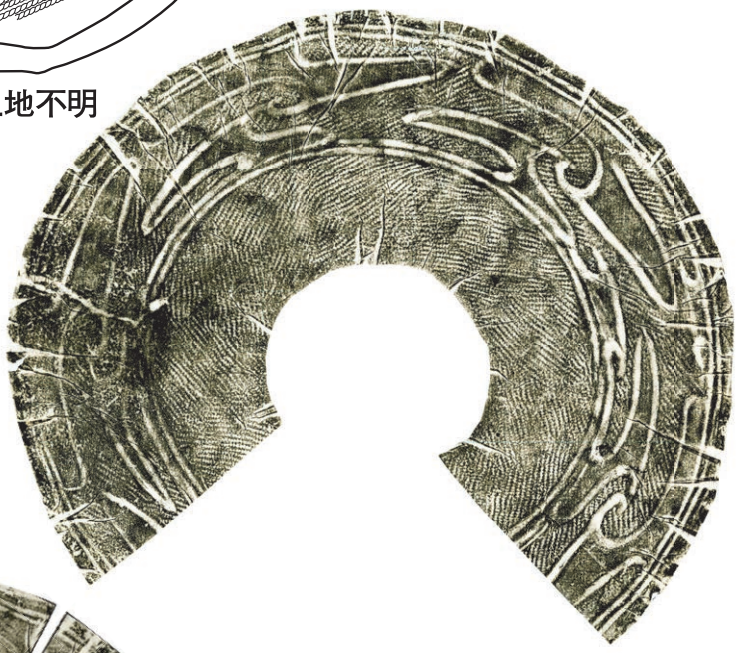


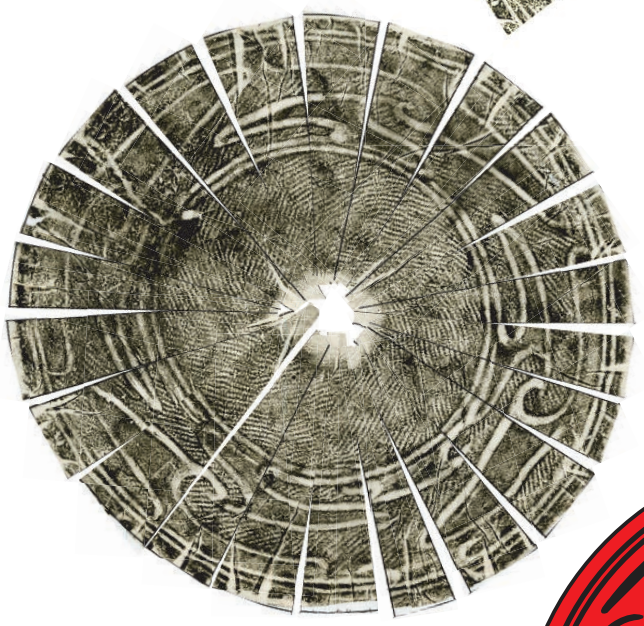
成田資料 113（大洞 C2 式）亀ヶ岡遺跡

図版 49　縄文デザイン 47

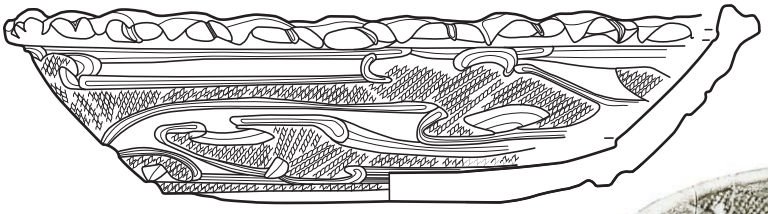


成田資料 127（大洞 C2 式）出土地不明



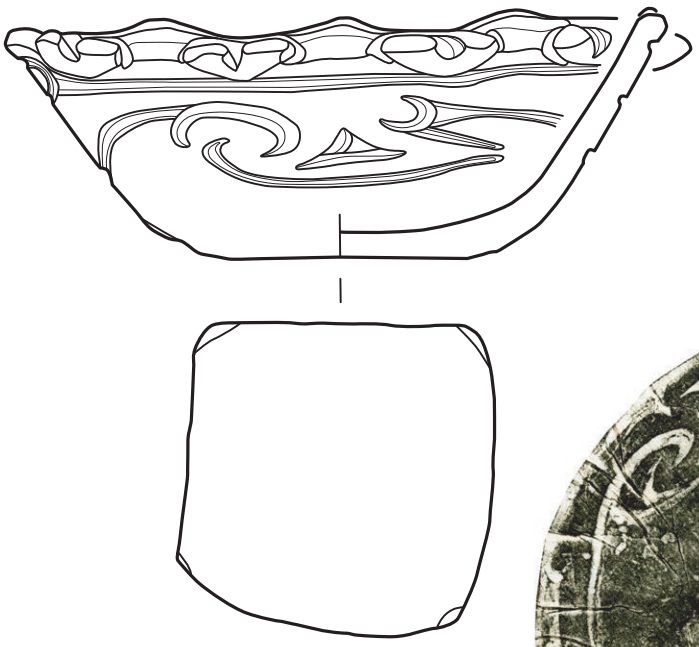


図版 50　縄文デザイン 48

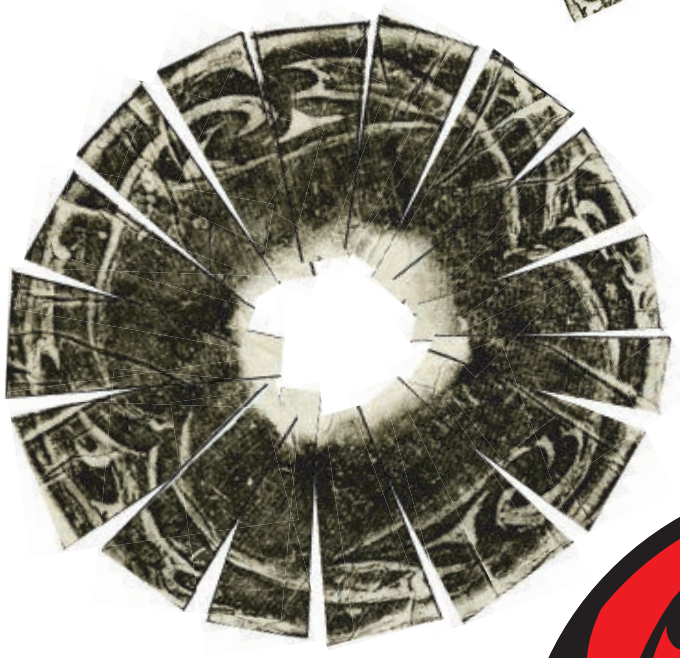


成田資料 129（大洞 C2 式）出土地不明

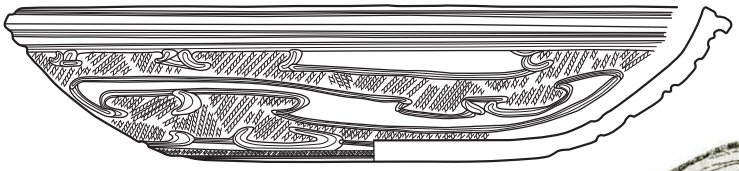
図版 51　縄文デザイン 49



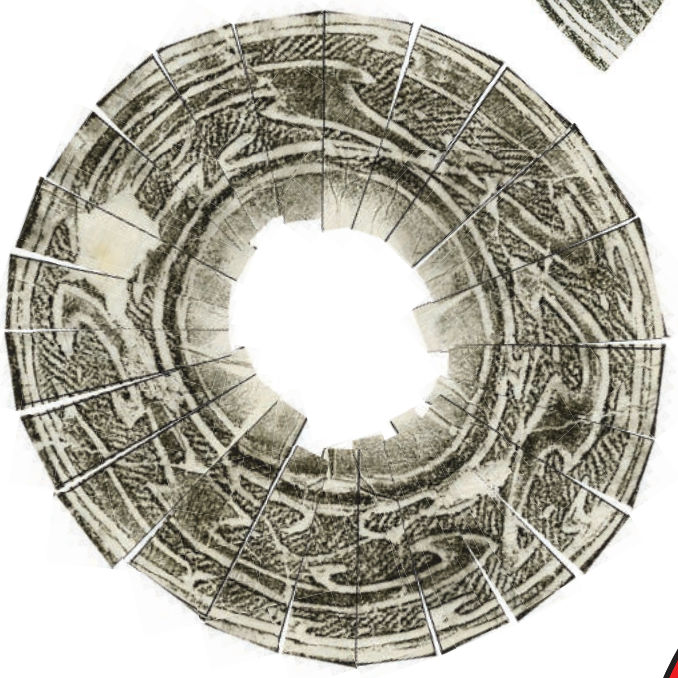
成田資料 130（大洞 C2 式）
出土地不明



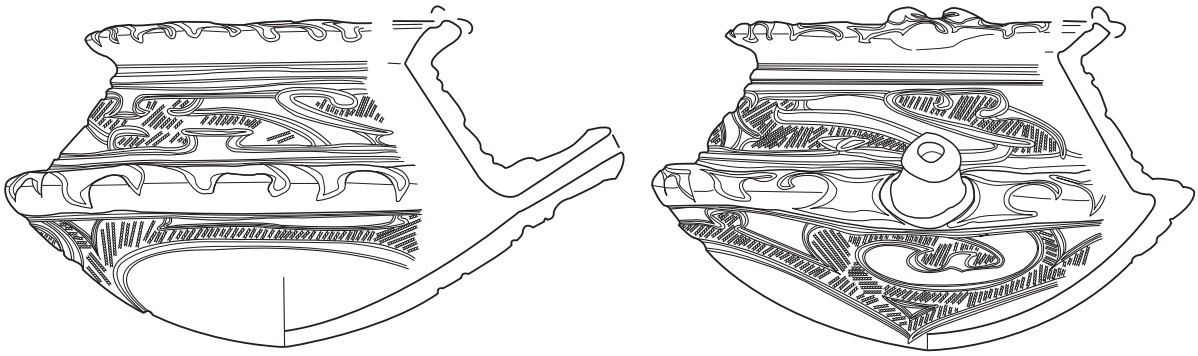
図版 52　縄文デザイン 50



成田資料 131（大洞 C2 式）長森遺跡

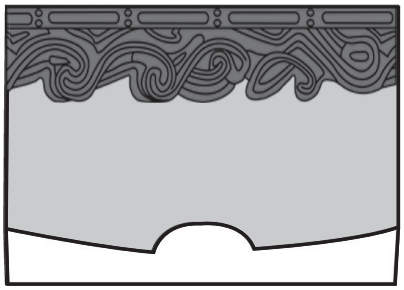


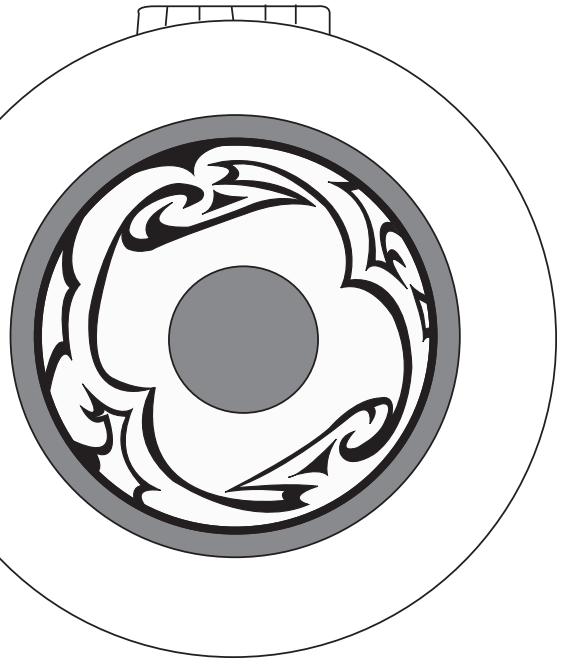
図版 53　縄文デザイン 51

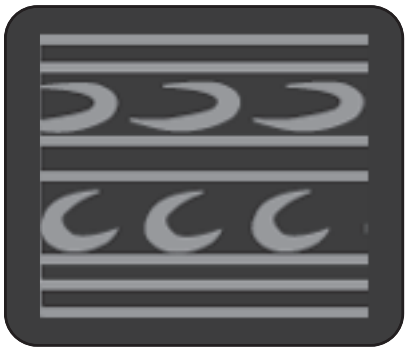


成田資料 136（大洞 C2 式）出土地不明

図版 54　縄文デザイン 52

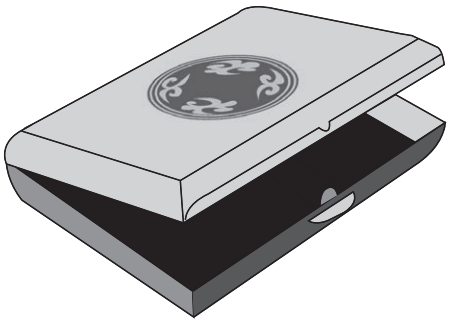


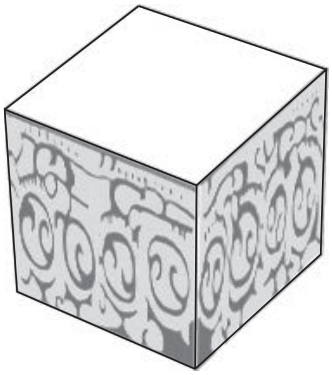




縄文デザイングッズ集

JOMON DESIGN GOODS COLLECTION





JOMON STAMP
80×10 stamps
yen

亀ヶ岡式土器の展開写真

日本郵便

成田資料 8

成田資料 38

成田資料 40

成田資料 54

成田資料 59

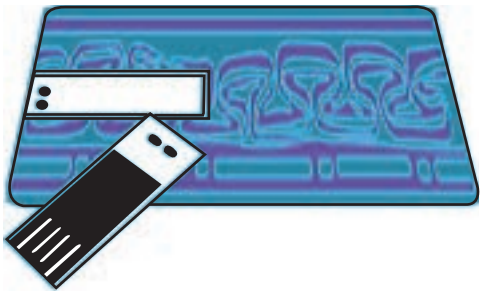
成田資料 68

成田資料 69

成田資料 71

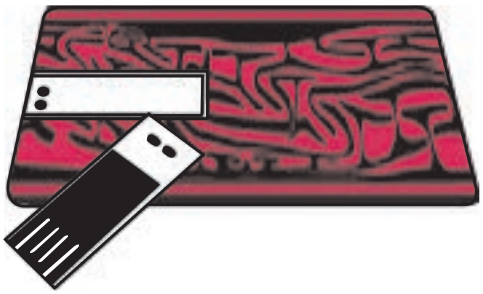
成田資料 131

縄文グッズデザイン案 1 (切手)

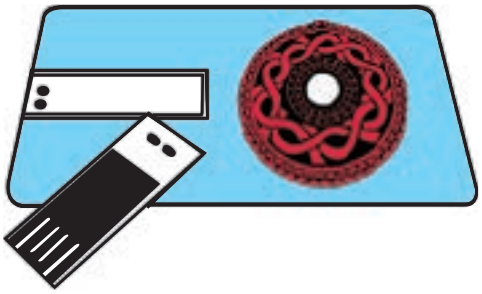


成田資料 122

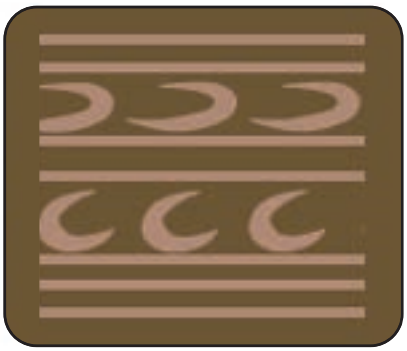
成田資料 139



成田資料 152



成田資料 67



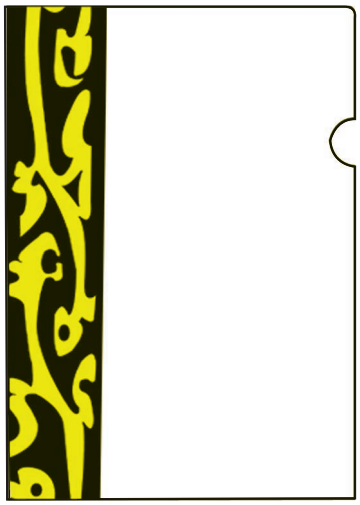
成田資料 110

成田資料 139

成田資料 69

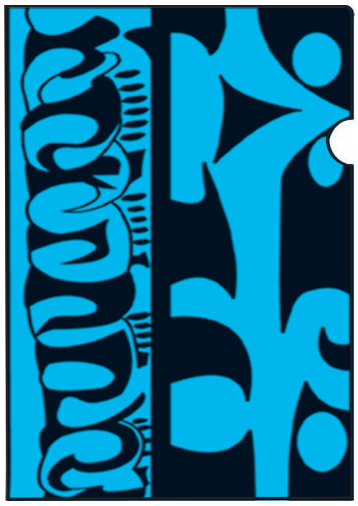
成田資料 113

縄文グッズデザイン案２　（カード型 USB、マウスパッド）



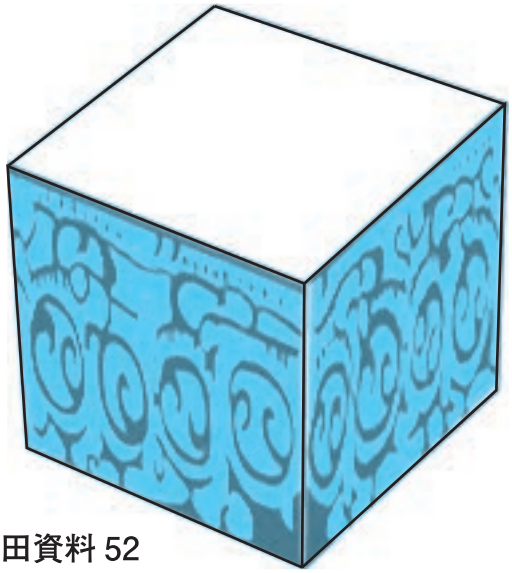
成田資料 129

成田資料 137



成田資料 141

成田資料 154



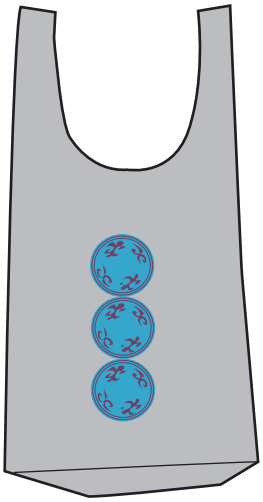
成田資料 52

成田資料 71

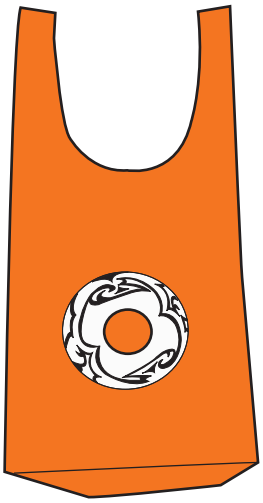
縄文グッズデザイン案３（クリアファイル、カラーブロックメモ）

成田資料 54

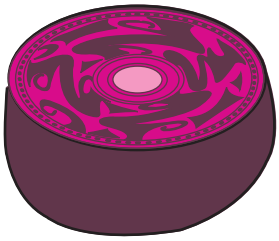
成田資料 6



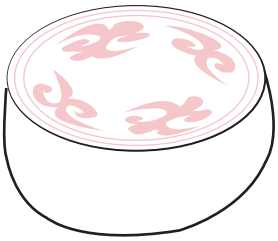
成田資料 113



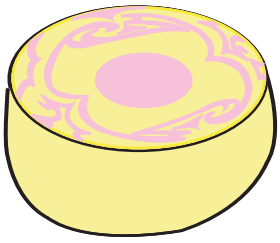
成田資料 130



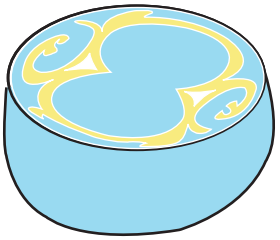
成田資料 65



成田資料 113

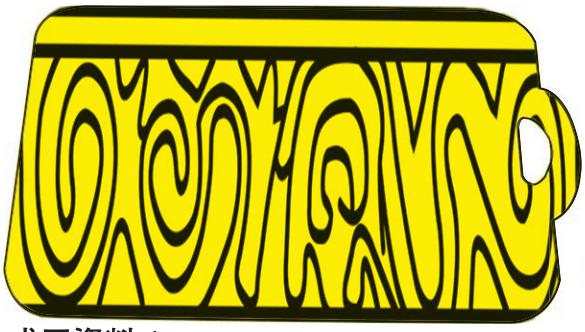


成田資料 130



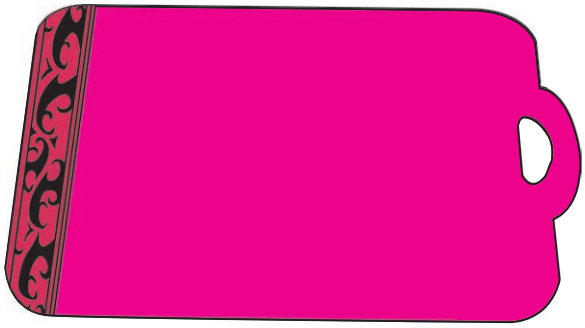
成田資料 136

縄文グッズデザイン案４　（タンブラー、エコバック、飴）



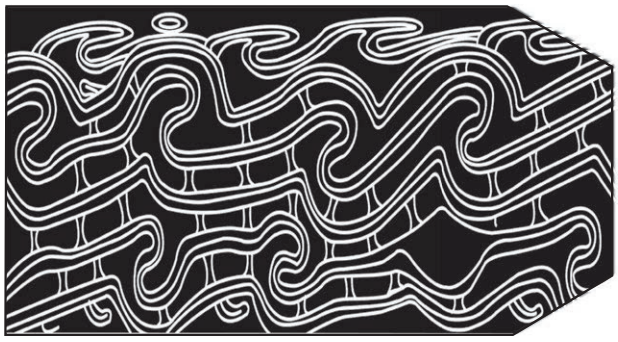
成田資料 1

成田資料 69

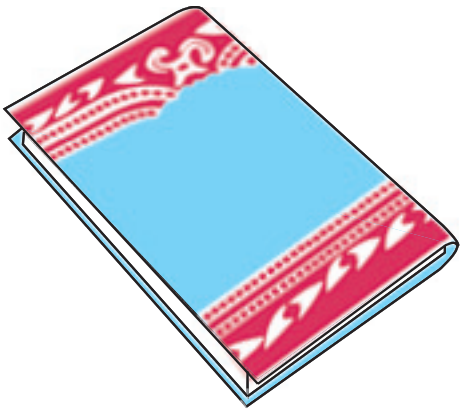


成田資料 119

成田資料 71

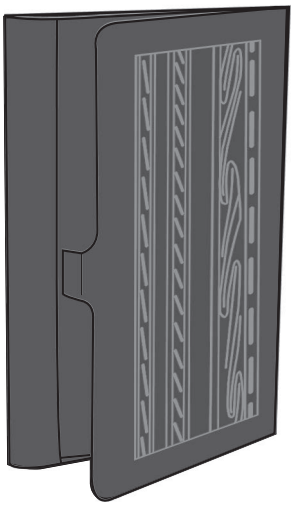


成田資料 12



成田資料 45

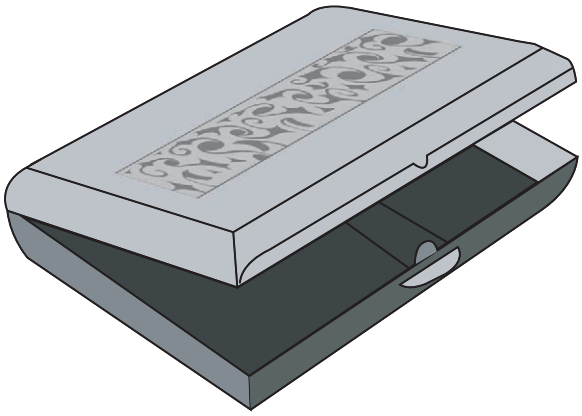
縄文グッズデザイン案５　（まな板、ブックカバー）



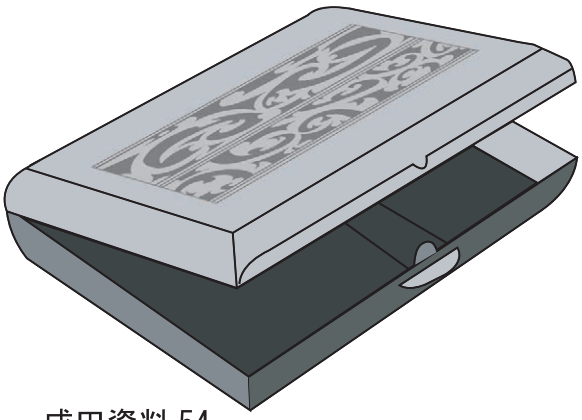
成田資料 160

成田資料 67

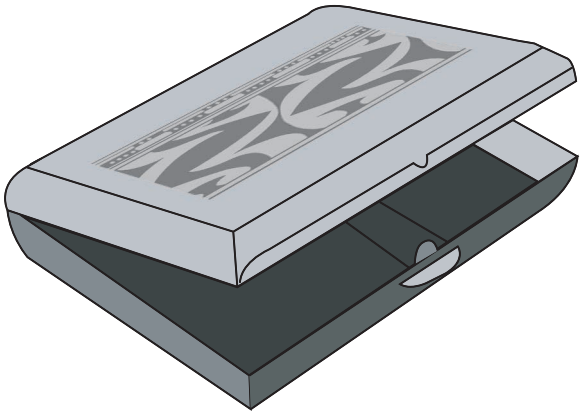
成田資料 69



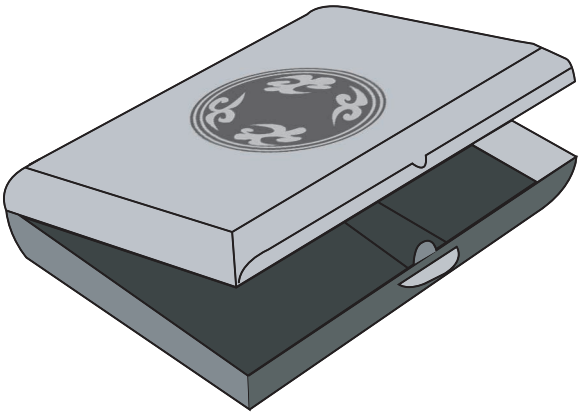
成田資料 38



成田資料 54



成田資料 59



成田資料 113

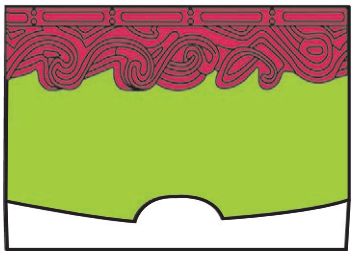
縄文グッズデザイン案 6 （名刺ケース、シガレットケース）

成田資料 65

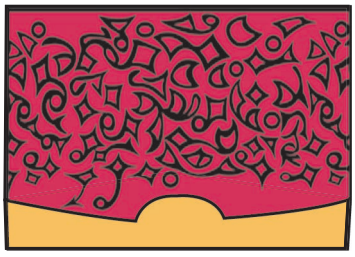
成田資料 71

成田資料 129

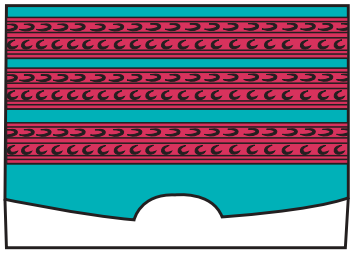
成田資料 130



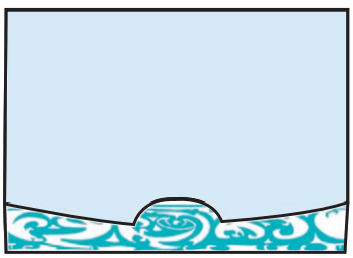
成田資料 14



成田資料 40



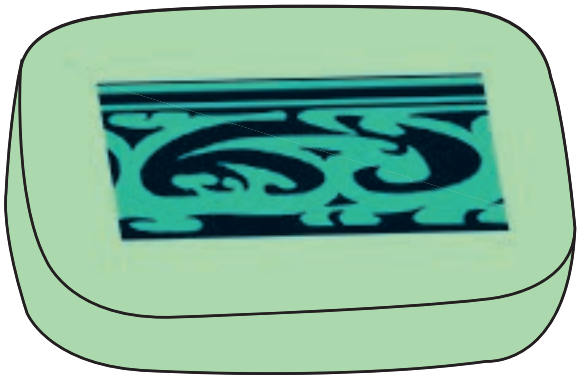
成田資料 110



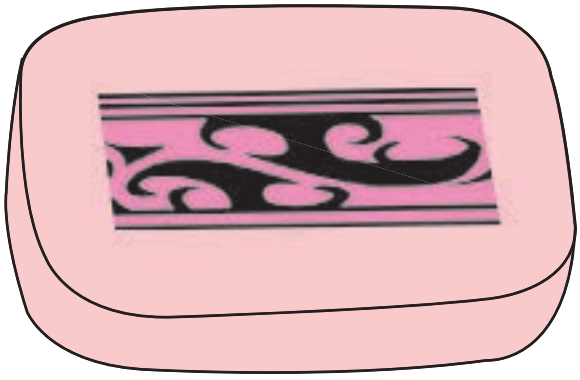
成田資料 113

縄文グッズデザイン案７（コンパクトミラー、油とり紙）

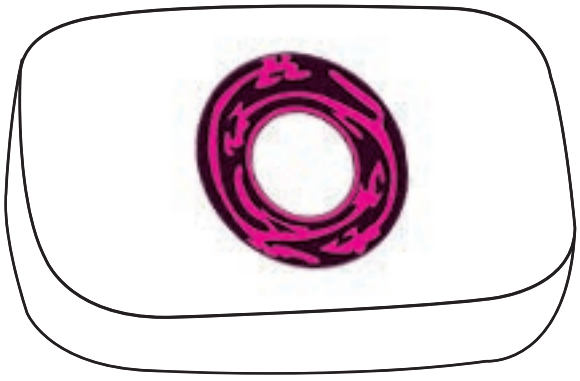
成田資料 38　　成田資料 69　　成田資料 102　　成田資料 109



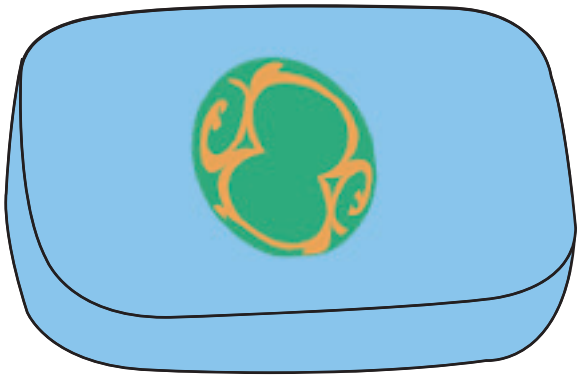
成田資料 113



成田資料 119



成田資料 129



成田資料 136

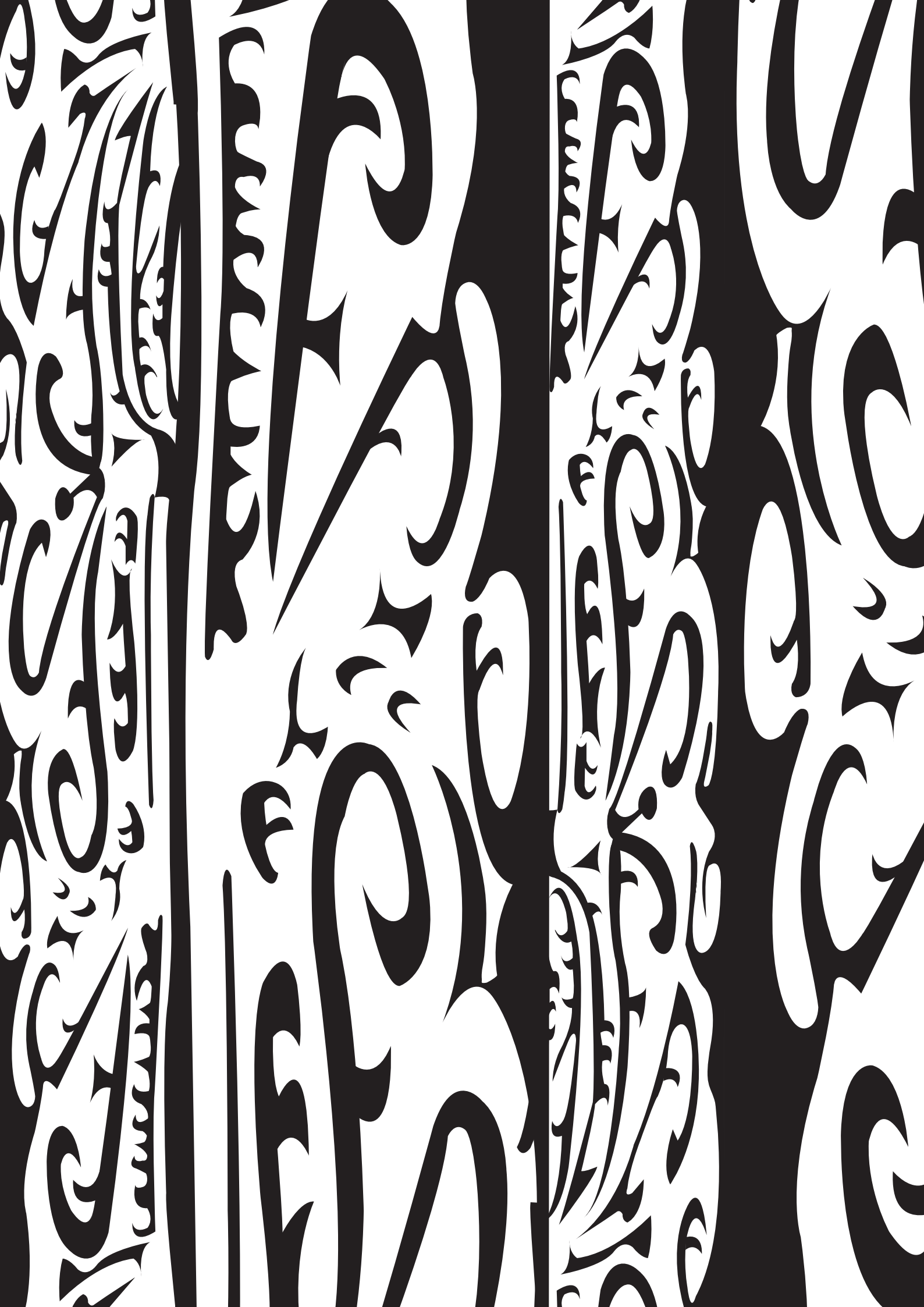
縄文グッズデザイン案 8 （歯ブラシ、石鹸）

縄文デザイン集Ⅰ

2011年３月１日　発行
編集　関根達人

発行　弘前大学人文学部附属　亀ヶ岡文化研究センター
〒036-8560　青森県弘前市文京町１番地
℡　0172－39－3190

印刷　川口印刷工業株式会社　青森営業所
〒030-0811　青森県青森市青柳１丁目16－3 木村ビル２階
℡　017－721－6520



JOMON DESIGN vol.1